如学会 NEWS

2017秋

政策研究大学院大学名誉教授

橋本久義 氏 講演 「モノづくりとグローバル戦略」 を語る

|夏期特別講義」 15人の卒業生が充実した講義

東京都

六華会、母校で「卒業六十周年を祝う会」追悼・木村富夫 先生電艦島をはかる」 島内最古の建物30号棟をはかる

「東芝ライテック技術見学会」LED照明を研修

作品+最新建築視察ツアー「坂倉準三パリ展」参加とコルビュジェ忙しい人のための3泊5日・パリ弾丸ツアー如学会主催・校友会・柏三水会・坂倉準三展実行委員会共催如学会主催・校友会・柏三水会・坂倉準三展実行委員会共催

「大学展・浅草展」出展者・参加企業募集初の大学主催「図書館展」開催案内「建築一〇〇人展二〇一七」

二〇一七年度定期総会・講演会・懇親会報告「いわき・ボランティアルームプロジェクト」「女流ファイル」PART・16「赤レンガ卒業設計展二〇一七」11月22日開催「進路ガイダンス二〇一七」11月22日開催



積極的なご参加を歓迎いたします。 ■「定期総会・講演会・懇親会」2017年6月3日開催

■「定期総会・講演会・懇親会」2017 年 6 月 3 日開催 ご招待客、教員、OB、OG、学生ら計 100 人余の方々 で賑やかに開催されました。

本年度前半の主な実施済み行事と後半の主な実施予定

行事は以下の通りとなっております。如学会の皆様の

- ■「坂倉準三パリ展参加とコルビュジェ他最新建築 視察ツアー」2017年4月25日-29日(3泊5日) 開催 パリ展レセプション、シンポジウムに参加し、 20数ヶ所の建築を見てまわりました。
- ■「進路支援プログラム/進路ガイダンス」2017年 11月29日(水)開催予定 それに先立ち8月30日 には準備会(職域理事会)も開催し、新企画の説明と 参加者のご意見をお聞きしました。
- ■「建築 100 人展 2017・図書館展・大学展・浅草展」 (大学展: 2017年11月4日-5日、浅草展: 12月2日-10日) 開催予定

今年度は、大学からのご要望を受け、「図書館展」を 開催し、多くの一般客や他学科の教員、学生にも見て いただけることになりました。

■ 12 年目となる OB、 OGによる「夏期特別講義」 を 2017 年 8 月に開催

本年は、5日間の各3人の特別講師に、毎日各4時限 目の討論会にも参加してもらい、意見交換をするとい う新しい試みを実施しました。

■「資格支援プログラム」(一級建築士、一般施工管理技師、宅地建物取引主任資格など)継続中

山岡嘉彌

如学会会長

如学会の活動報告



数々の資格取得を支援するための、卒業生による指導 と、資格取得専門教育機関との授業料の減免措置を継 続しております。

- ■「如学会 NEWS・2017 秋号 / 2018 春号」の発行 皆様からのご意見を反映し、より読み易い誌面を構成 するように検討しております。
- ■他のイベントとしては、毎年恒例の OB・OG の設計による作品を見学する「作品見学会」、建設会社の技術研究所などの研究機関訪問の「技術研修会」などを実施していく予定です。9月27日には大成建設技術研究所見学会を開催しました。(参加25名)
- ■正会員(会費を納められた方)の拡大にご協力下さい。建築学科の学生は、大学を卒業した時点でいわば自動的に如学会員となるわけですが、年会費を納めると「如学会 NEWS」、「如学会メールマガジン」などの情報が届き、様々な如学会(校友会も含む)関連事業に参加が可能となります。級友、先輩、後輩など、お知り合いの方々にも周知を促し、正会員としてより一層の飛躍のチャンスを生かしていただけることを願っております。

■常任理事、委員の募集

如学会はより一層の発展のために、一緒に活動をして くれる同志を募っております。より多くの仲間による 叡知の結集がより良いアイデアを生み、活動が展開し ていきます。

卒年、出身、専門分野、男女など一切の制限はありません。 ご連絡をお待ちしております。

今後とも如学会会員各位の益々のご協力、ご支援をよ ろしくお願い致します。

ご連絡・問合せ先: jogakkai.info@jogakkai.jp

■世田谷キャンパスの新校舎建設中

建築学科棟の東側に延べ面積約8000㎡の新研究・実験棟が来年3月の完成を目指して建設中です。設計は先にお伝えしたように、建築学科堀場研究室ですので、建築学科との関係は深いと言えます。建築学科棟からよく見えますし、鉄骨が上がり、日に日に風景が変わっていきます。道路からはちょっと見えにくいですが近寄ってみると、かなり大きな校舎であることが分かります。完成が楽しみです。なおちょっと先になりますが、世田谷キャンパスの近くに国際学生寮の計画があります。具体化はまだですが国際化の進展が期待できます。

■建築学科ファイスブックページ

建築学科のオフィシャルファイスブックページ (Facebookページ)があります。建築学科のタイムリーな情報を掲載していきますので、建築学科のHP、如学会のFacebookページともども是非ご覧ください。建築学科の今が分かるかもしれません。

■学部改組

世田谷キャンパスの学部構成が平成31年から改組されます。工学部が「理工学部」となり、知識工学部が学科の構成を変えて「情報工学部」となります。この改組に伴い、建築学科と都市工学科が「学系」という形でグループとなり、授業などの共通化、交流が行われるととなりました。

勝又英明

東京都市大学

建築学科主任教授

建築学科の近況



■三宅敏郎先生逝去

三宅敏郎先生は平成29年6月18日に亡くなりました。 (享年95歳) 三宅先生は武蔵工業大学の卒業生とし て第1号の日本建築学会賞(作品)を昭和33年に「中 国電電ビルディング」で受賞されました。その後本学 からは多くの作品賞の受賞者を輩出していますがその 先駆者といえます。三宅先生は広瀬先生と親交が深 く、広瀬先生と共著で「建築ディテールの考え方」 (彰国社、昭和38年)を執筆されています。この本 は建築構法について丁寧に解説したもので、お二人の 研究、実務の成果の詰まった名著と思います。(今で も古書としては入手可能です。) また三宅先生は建築 設計の教科書として「建築設計教室」を執筆されてい ます。この本の著者は小谷喬之介、寺田秀夫、三宅敏 郎の3氏の共著で、実はこの本は新訂版を(三宅先生 から推薦を受けて) 私と宮下勇(武蔵野美術大)、本 杉省三(日大)の3人で改訂し、現在でも都市大2年 生の設計の教科書として使用しています。大学とのか かわりでは非常勤講師として本学大学院で長年防災計 画を講義され、受講された方も多いのではないかと 思います。就職の面でも、日本電信電話公社、NTT、 NTTファシリティーズの就職の際にはたいへんお世話 になり、現在NTTファシリティーズに多くの卒業生が いらっしゃるのは三宅先生のお陰です。ご冥福をお祈 りいたします。



橋本 久義 氏

1969年 東京大学工学部精密機械工学科

卒業、通産省入省、78年西ドイツデユッ

セルドルフに JETRO 調査員として3年

間駐在、その後、通産省にて機械情報産

業局鋳鍛造品課長、中小企業技術課長、

立地指導課長、総括研究開発官等歴任、

94年 埼玉大学教授(政策科学研究科)、

97年 政策研究大学院大学教授、2011

年 政策研究大学院大学名誉教授

如学会講演会

於:渋谷エクセルホテル東急

講演

橋本久義 氏 _{政策研究大学院大学名誉教授}

「モノづくりとグローバル戦略」

6月3日、渋谷エクセルホテル東急(東京・ 渋谷)で開かれた2017年度定期総会の後、中 小企業の活性化をメインテーマに研究に取り組 む橋本久義氏(政策研究大学院大学名誉教授) が「モノづくりとグローバル戦略」をテーマに 講演した。33年間で3万7000社以上の中小企 業を訪問したという橋本氏は「社長たちは面白 い人たちばかり。交流を続け『絆』を大切にし ている。中小企業は日本の『まごころ』であり、 世界の『宝』だ」と力を込めた。

今後の日本経済について橋本氏は、三国志の諸葛孔明が劉備玄徳に出会う前の別名「臥龍」を引き合いに「臥龍経済日本」と称し、「伏せていた龍(孔明)が水を得て大暴れしたように、日本経済は必ず上向く。今年は本当に良くなると私は確信している」と強調した。その一方で「心配の種は尽きない」とも述べ、為替市場の動向や、英国が離脱する欧州連合(EU)経済、中国経済など、日本経済に大きな影響を与える要素を挙げた。

トランプ政権は雇用創出のため、自動車など

の産業界に内製化を要請している。この動きは、

日本企業にとって「神風」になると橋本氏。そ

の理由を「アメリカは製造コストが高い国。ア

メリカの自動車産業はいつか自国での生産をや

めようと思っているので、国内工場にほとんど

中でも、米国にドナルド・トランプ大統領が誕生した「トランプ・ショック」は、大統領選(2016年11月9日〈日本時間〉)の予想外の結果による政治的な衝撃とともに、世界の外国為替市場や株式市場などに激震が走った。橋本氏は「アメリカは大丈夫なのかと大騒ぎになった」と振り返ったものの、「日米は戦後以降、最も良い状態になるだろう」との見解を示した。

不動産王のトランプ氏は世界各国の政治家を知らないとし、「安倍(晋三)さんは選挙期間中に一切トランプさんについて論評していない。ヒラリー(クリントン)さんのことも言っていない。トランプ陣営は1年間、安倍さんをモニタリングし、信頼できる人だと判断した。だから11月18日にトランプタワーに招かれたし、(2017年)2月8日には日米首脳会談が実現した」と解説。その上で「トランプさんの悪口を言わず、ドイツのメルケル首相やロシアのプーチン大統領、中国の習近平国家主席とも中立の立場で付き合っている安倍さんをすっかり信用している」と述べた。

「中小企業は日本の『まごころ』であり、世界の『宝』だ」



設備投資をしていない。だが大統領の要請は無視できないので多少の設備投資をする。工作機械やロボットを日本に発注し、自動車の部品も日系の部品メーカーから調達することになる」と説明した。

米国のTPP(環太平洋経済連携協定)離脱も、日本企業にとって「神風」という。TPPの構成国を国内総生産(GDP)の割合でみると、米国62%、日本23%、オーストラリア4%、他の国は1%未満だったが、米国が抜けると日本が60%以上を占めることになる。橋本氏は「肉や米を買えと言っていたうるさいのがいなくなり、労せずに中・韓抜きの『大アジア・太

平洋連合の盟主』になれる」と述べた。

もう一つの心配が「中国」という橋本氏。習 国家主席は、賄賂などの汚職の撲滅に力を注い でおり、橋本氏は「『ハエ(小役人)も虎(政 府高官)も叩く』ということをしていると発注 が止まる。日本ではないが、中国ではリベート が当たり前。今もらうと捕まるので、もらえる 状態になるまで待っている。これでは経済が好 転しない」と分析した。 だが共産党の国で経済などを人為的に制御できるため、「ゴムの胃袋に鉄の肺を持ち、恥はかき捨てる国だ。中国は崩壊しない。この3年、設備投資をしていなかったが、ここにきて工作機械や建設機械が売れ始めている。今年中には中国はすごく良くなる」との先行きを示した。

ー レポート●山口裕照(H10 卒)

日刊建設工業新聞社

橋本氏は、フィリピンやタイ、ベトナム、インドネシア、マレーシアなども重要な国とした上で「中国に変わるほどのメリットはない」と指摘。米国が90年掛けて11万キロの高速道路を整備してきたのに対し、「中国はたった22年で14万キロを整備して世界一となった。すさまじいインフラ整備、経済力・経済規模、労働者の意欲・技術・根気で、中国に匹敵する国を探すのは難しい。『チャイナ・プラス・ワン』の『ワン』の国を世界中で探して、あるとすればそれは『日本』だ」と力を込めた。

2012 年に第 2 次安倍政権が発足して以降、大胆な金融政策と機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の「3 本の矢」から成る経済政策「アベノミクス」。その肝を中小企業、製造業という橋本氏は「(アベノミクスは)製造業なくして日本なし、中小企業なくして日本なしとなっている。安倍さんは第 1 次政権後、日本中の中小企業を回った。いろんなタイプの政治家がいるが、自分の選挙区以外でものづくりの中小企業と親しい人はいない。安倍政権はこれからも中小企業を大切にするに違いない」と語った。



軍艦島

1974年の閉山以来、無人島となった長崎県端島(軍艦島)は、塩害 強風、高波などの厳しい自然環境による持続的あるいは断続的な作 用により建築群の劣化・損傷が進行し、現在, 崩壊過程にある。 濱 本先生は、今後の維持管理に役立てる基礎研究の対象として、軍艦 島のモニタリングを行っている。中村さんは、第2の故郷である軍 艦島の思い出、そして保存について想いを馳せる。

はかる

迫力のあるドローンによる空撮により始まった。まさに、崩壊過程 にあることがよくわかる映像で、会場の注目を一気に引きつけた。 濱本先生の研究課題は、「想定外事象に対するネットワーク異常検 知システムの軍艦島における実証的研究」である。廃墟化した軍艦 島建築群の状態を遠方から随時監視し、今後の維持管理に役立てる ための基礎的な研究を科学研究費補助金・基盤研究(B)のもとで 進めている。島内に太陽光パネルとバッテリーを持ち込み電源を確 保し、視覚(映像), 聴覚(音), 触覚(振動)を使って長期的に監 視を続け、そのデータを無線通信により転送して遠隔地でもリアル タイムで建築群の状態を把握できるシステムの構築を目指している。 今回、第1回として、今年で竣工後100年を迎える島内最古、かつ 我が国でも鉄筋コンクリート造アパートとしては最古となる30号 棟に焦点を当てた。

研究の始まりは30年前に遡る。建物も人間と同じで生まれてから、 徐々に劣化していきいずれ最後を迎える。しかし、劣化状況を把握 できれば、補修することでまた健全性を取り戻すことができる。そ んな思いから建物の診断技術に着目した。建物の振動を計測するこ とで、経年劣化や地震による損傷を定量化する全体モニタリング技 術。その技術を実際の建物に適用し、設計値と計測値を比較、耐震 補強の効果を確認してきた。

そして、2011年3月、東日本大震災で広範囲にわたり建築群に被 害がでた。ニューヨークWTCビルの倒壊でも倒壊したビルの周辺 広範囲に被害がでた。今までは個々の建物のモニタリングについて 研究してきたが、建築群をモニタリングすることが、二次災害を低 減したり、迅速な避難活動に繋がると思った。そして、中村さんの 引率のもと如学会で軍艦島に訪れたとき、崩壊過程にあるこの島を 実験のフィールドとすることにした。

視覚 (映像), 聴覚(音), 触覚 (振動) を用いることで、全体的に 捉えることができる。今までの研究は、触覚を主としてきたが、軍 艦島では視覚と聴覚と取り入れた、総合モニタリングシステムを構 築している。電灯のない軍艦島では、視覚は主に昼の情報、聴覚は 夜の情報となる。

30 号棟

まずは、ドローンによる30号棟の外観、想像以上に劣化が進んで いる。床が崩落し、下層部には上階からの床の崩落したコンクリー トがたまっている。南側の壁面では柱、梁のコンクリートも剥落し、 鉄筋(ケーブルにも見える)が剥き出しになっている。ヘルメット に取り付けられたウェアラブルカメラでは、内部の様子が写し出さ れていた。コンクリート製の柱・梁の損傷の激しさが伝わってくる。

濱本 卓司(HAMAMOTO Takuii) 本学建築学科の教授として、平成28 年3月まで、建築構造学の教育・研究 の分野で活躍。建築学科の主任教授を 9年務めた。日本建築学会では、いく つもの委員会の委員長・主査を務める。 平成11年には、「海洋シェルと大規模 浮体の流力弾性応答に関する一連の研 究」で日本建築学会賞を受賞。



講師:濱本卓司、中村陽-



床の大崩落(内観

734夢キャンパス



1階は上階から落下したガレキで階の半分くらいが埋まっていた。 やはり海風、潮による塩害の影響により、柱・梁の鉄筋がさびてひ どく劣化している。

主催:東京都市大学/校友会 協力:如学会

本

東

京都

市大学

名誉教授

こうして集めた情報を静止画にし、柱、梁の断面がどれくらい欠損 しているかを調べ、建物の構造性能のシミュレーションへと繋げる らしいが、今回の講演では細かい研究内容には踏み込まない。

30 号棟は4つの建物を巴型に連続して建設して、中庭を有する四角 い平面形状をした建物である。故に、外周部と内部の中庭部分が外 気(塩害)にさらされ、損傷の進行を加速している。

昨年、九州に停滞していた台風により、床の大崩落が起こった。外 部には柱と梁で構成された面(床と大梁がない)がすっぽりと吹き 抜け空間を作っていた。床の大崩落は、今回新たに南側にできたが、 東側にも床の崩落部分がある。外壁面が一枚の板のようになっている。 [触覚]30号棟には振動センサーを9台設置(1階に1個、2階に 4個、7階に4個)してあり、床の大崩落によって、建物の周期が 変化したことが振動計測よりわかる。[視覚]30号棟専用の定点力 メラによって外部より監視している。もし大きな変化が起これば視 覚的情報が記録され、崩壊過程の即時把握ができる。[聴覚]マイク ロフォンを30号棟の2階と7階に計32個設置し、異常音・破壊音 をキャッチする。音の高低、大きさ、継続時間を計測し、処理を行 うことにより音環境を可視化 (音模様と呼ぶ) する。聴覚情報は、 崩壊現象の予兆把握が期待できる。

島内でモニタリングされた情報は、無線により島から5km離れた 長崎の軍艦島資料館へ飛ばし、そこからインターネット回線で、今 この瞬間も東京都市大学まで送られている。

「将来起こるであろう災いによる被害の低減、建築群の維持保全の ために・・・」

長崎港の沖・東シナ海に浮かぶ絶海の孤島、正式名称は端島。20世 紀「黒ダイヤ」と呼ばれる高カロリーの原料炭を産出し、日本の近 代化に大きな役割を果たした島。明治23年に三菱砿業(株)が端 島炭鉱を買収し、高島砿業所とする。高島砿業所の中には、二子坑 (高島)、端島坑があった。これが、現在ある三菱グループの始まり だった。鉱区は東側(内海側)にあり、居住区は西側(外海側)に 設けられた。外海からの波を居住区で防ぎ、大切な鉱区を守った。 大正5年、我が国最古のRCアパートである30号棟が完成。1へ クタールに 1400 人を超える超過密度の人口をかかえた。島での生 活は、地形、気象、洋上の孤島という条件から生ずる自然環境の厳 しさ、生活と生産の場が重層、重複し、日本資本主義を代表する巨 大な企業体によって、丸抱えされた地縁的単一社会で、階層、ヒエ ラルキーが明確に分離、共存する徹底した管理社会であった。昭和 49年1月15日に閉山後、3ヶ月で無人島となり、40年以上そのま まの姿であり続ける島には、過去の日本を支えてきたダイナミック なエネルギーの痕跡と、そこに暮らした人々の生活環境が今も残さ れている。



活発に石炭を産出していた頃の端島



たびたび台風による大波に襲われた

島での生活

全てのものがあった。一つの都市機能を有していた。唯一、無いも のと言えば、火葬場と墓だけ。端島へは長崎港から船(夕顔丸)で 18.5km、途中に高島と中之島があり、8 ノット (15km/h) で運行し ていた。端島は海が深く港が造れなかったため、手漕ぎの小舟に乗 移り、桟橋から垂れるタラップを使って上陸していた。まさに命が けの上陸だった。昭和29年にドルフィン桟橋が完成し、船が横付 けできるようになったが、台風で2度も流失した。昭和37年に岸 から 12 mの海中にマスコンクリートの人工島を造り、桟橋を架け 上陸できるようになった。飲料水は、当初は蒸留水だったが、給水 船(朝顔丸)により端島に水が運ばれ、貯水タンクに貯められた。 その水を汲み運ぶことが女性達の仕事だった。水は券で無駄使いを 規制した。風呂は海水で沸かした。雨水も大切に使われた。そして、 昭和32年、海底水道が完成し、やっと水の苦労から解放された。 電気は当初ランプを使用していたが、島の成長と共に、電力不足と なり、大正6年に海底ケーブルで隣の高島火力発電所からの送電と なった。端島は敷地が狭いため、発電所の増設ができなかった。家 庭の煮炊きは、坑木を蒔きにして使用した。屋上が子供達の恰好の 遊び場だった。海が深いため岸壁の外で泳ぐのは禁止になっていた。 会社に購買会があり、生活必需品を手に入れた。露天商人は朝、船 で上陸し商売をした。多目的劇場があり、映画が上映されていた。 パチンコ、ビリヤード、卓球などの施設もあった。バーも完備され、 娯楽施設は充実していた。春秋には神社の例祭が行われた。禅寺も あり、島民の精神を支えた。また、葬儀は島内で行われ、船で中之 鳥の火葬場に運ばれた。

田



中村 陽一 (NAKAMURA Youichi) 1938年札幌市で生まれ、終戦後の 1945年一家で樺太より引き揚げ、端 島(軍艦島)へ移住。父親が端島の三 菱砿業株式会社の鉱長であったため、 中学一年まで端島で過ごす。昭和38 年武蔵工業大学建築学科を卒業され、 清水建設、住友不動産において設計が ら工事監理にて活躍。現在は、世界文 化遺産に指定された第2の故郷である 軍艦島の功績を語りついでいる。

S38 卒

-艦島を

世界

遺産にす

る会

理

海底炭鉱

不夜城と呼ばれ、3交代制(8時間労働)で24時間島は明かりが ついていた。それから、2交代制(12時間労働)となり、厳しい労 働環境のもと石炭を掘り続けた。端島の坑内は、第二立坑は海底面 下深さ 606 m、最深部は、海底面下 1010 mにも及んだ。さらに、 水平坑道は 2334 mであった。落盤、坑内火災、水没事故、・・・毎日、 家にある神棚に手を合わせていた。事故があるとすぐに島民全員に 伝わった。島民は一家であった。味噌、醤油を近所で借りたりした。 家に鍵をかけることはなかった。夏は夕凪(風がぴたっとやむ)で 蒸すため、窓は開けっ放しだった。

台風では、島が海の底に沈むような大きな波に襲われ、木造住宅は やられた。防潮のためにRC造アパートを作った。島を波浪から守 るのは岸壁の充填剤に天川(石灰赤土の混合セメント)が使用され、 その後、ドイツから輸入したプレパクトコンクリートが護岸の補強、 ・ 止水工事に威力を発揮した。



第3期ドルフィン桟橋

30 号棟

木造平屋建長屋から木造多層住宅を経て、木造・コンクリート混構 造が現れた。大正5年竣工の鉄筋コンクリート造の30号棟ができた。 間取り1K,133戸、地上7階、便所、洗濯場は共同。日下部義太 郎炭鉱長が欧米を視察帰国後、端島の社宅は高層化しなければ人口 増に対処できないとして、RC造アパートを初めて計画実行したと される。当時の新聞記事にでも紹介されていた。メータモジュール を採用し、各戸に土間と炊事場があった。中央の光庭に面して階段 が設けられていた。島民の生活環境に配慮したすばらしい設計だった。

30号棟の保存は無理なのか

専門家は、修復は無理だとして、風化に任せるしか方法はないと言っ ている。英知を集結して何とか保存できないものか。島の上陸禁止 が解除されて以来、多くの観光客が島に訪れている。その最大の目 玉が 30 号棟である。

建物が自壊しないようい自重を各階にて支保工で支える。中村さん は、独自の保存計画を作りあげていた。作業手順から材料、運搬や 支保工の配置間隔まで細かく計画されていた。さらには、30号棟の 総重量と支保工の強度計算、概算工期と工事費まで算出し示された。 今まで建築に携わってきた経験と30号棟保存に対する熱意を強く

「このままの姿で、永久保存を願う。」

第2回 2017年9月30日(土)

「70号棟(小中学校)、31号棟(耐波建築)、65号棟(最大の建築) をはかる」

第3回 2018年3月24日(土)

「日給社宅(16~20号棟連結建物)をはかる」

レポート: 青年委員会 三好敏晴 (H10 卒)

追悼

木村富夫 先生を偲んで

加藤卓郎 (S47 卒/加藤組鉄工所)







北九州メディアドーム(小倉ドー)

平成 29 年 3 月 5 日木村富夫先生は 88 歳でご逝去されました。 50 歳代から数回、脳梗塞を患いながらも退官まで教鞭をとられま したが数年前から入院生活となり治療の甲斐なく、ご家族に看取 られ静かに息を引き取られたとのことでありました。ご冥福を心 からお祈りいたしますとともに、ご家族のご心痛をお察し申し上

先生とは昭和 47 年の卒業以来、今日に至るまで大変お世話になり、最近は時折交わしておりましたお便りで、お付き合いが続いておりました。この度光栄にもご指名を頂きましたので、先生の足跡を判る範囲でお調べして追悼の文とさせて頂きます。

昭和3年10月6日東京都小石川にて姉二人、妹一人のご長男として誕生、早稲田大学理工学部 建築学科 鶴田明教授に師事、同鶴田建築構造研究室にて博士課程を修了され、助手として研究活動に従事され昭和36年4月より武蔵工業大学(現東京都市大学)にて助教授として建築学科 構造木村研究室を開設されました。専門学科は、建築構造力学、鉄骨構造(1)(2)、建築実験、構造力学(1)、構造設計(2)でありました。

その当時の様子は武蔵工業大学昭和43年史誌に、本校は「昭和4年に電気、建築、土木の三工学科にて武蔵高等工科学校として創立し、その後機械、電気通信、経営を増設し昭和24年武蔵工業大学に昇格セリ。翌25年短期大学を併設、38年には原子力研究所を設置、近代の日本工業会に幾多の貢献をなしている。」

と記載があります。また、八木秀次総長、山田良之助学長、五島 昇五島育英会会長、とともに建築学科では計画部門で、広瀬鎌二 教授、笹原貞彦助教授、大須賀常良助教授、鈴木一助教授、田辺 健雄講師、構造部門で、佐野弘、望月重、木村富夫助教授の諸氏 が写真に残されております。

さて、先生の専門分野は、「鉄骨および鉄筋の接合部の諸性状や 品質管理上の問題について非破壊検査法を採用して研究」と記さ れております。

論文においては

1960年 高張力ボルト摩擦接合部の研究-1 (日本建築学会) 1961年 高張力ボルト摩擦接合部の研究-2 (日本建築学会)

1962年 軽量形鋼のコンタクトアークスポット溶接に関する実験 (日本建築学会)

1962年 高張力ボルト摩擦接合に関する光弾性実験 (日本建築学会) 1967年 鉄筋のエンドクローズド溶接 (溶接学会)

1981年 鉄骨立体骨組みの弾塑性挙動に関する実験(学術講演梗概集) 1983年 鉄筋の圧接継手の施工条件と強度:構造(学術講演梗概集) 1986年 鉄筋の交点溶接が主筋に及ぼす影響 (学術講演梗概集) などが記録されております。

注目すべきは、先生の所蔵されていた資料から東京タワーの建設 中の写真等が数多く出て来たことです。

調べてみますと、設計者の内藤多仲先生とのお付き合いがあったようです。氏は東京帝国大学を卒業後、早稲田大学理工学部部長を歴任、第17·19代日本建築学会会長を務められました。電波塔

の設計の第一人者として、名古屋テレビ塔、大阪通天閣、東京タワー等の設計を数多く手掛けられました。

木村先生は昭和32年~33年の大学院時代においてこの東京タワー電波塔の短期間の建設に鶴田研究室から参画され、製作工場でありました、新三菱重工業、松尾橋梁に再三通われて日建設計、早稲田大学の技術者を交えての実験等で試行錯誤を共にされた様子です。折しも、先生の専門分野であります現場の継手方法は、鉸(かし)めのリベット構造からボルト構造に変わる時期で、まさにその実証実験を目の前で経験されたのではないでしょうか。鉄骨構造部材の継手方法はこのあと、高張力ボルトそして特殊ハイテンションボルトへと発展して行き、鉄筋構造部材の継手方法はガス圧接方法に発展していくという、いずれも昭和30年代から40年代は技術の転換期だったと思います。

その後、昭和39年の東京オリンピック、東海道新幹線の開通に、 景気は上昇機運となり鉄骨構造の高層ビルが建築され始めました。バブルまでの20数年間はほぼそのままの成長を維持して行きました。この間、先生は超高層鉄骨造の現場溶接の指導を全国各地でされていたようです。

平成 7 年 久留米市役所本庁舎 (B2F~20F SRC+S)

菊竹清訓建築設計事務所設計、鉄骨の品質と溶接の管理。

平成9年 北九州メデイアドーム (小倉ドーム)

菊竹清訓建築設計事務所設計、鉄骨の品質と溶接の管理、 建て方と本締め、現場溶接の管理。

平成10年 武蔵工業大学を退官。

木村先生の鉄骨工事に関しての主要テーマは、鉄工所の工場訪問を通じて、技術もさることながら、事業形態の安定化に関心を持たれていました。

昭和56年建築基準法改正の新耐震法によりすべての構造に変化が生じました。これより前、昭和48年、鉄工所は各県を基本に全国組織編成され、製作能力を5グレードに分類して制約を受ける自主組織を創設しました。鋼構造物の品質向上と製作工程の標準化を目指し、全国3000社程のグレード取得構成員を組織化する団体になりました。

この新耐震法の翌年、昭和57年に自主認定は建設省(国土交通省)の大臣認定に移行して公的に評価され、現在に至っております。 結果として専門工事業の独立と事業形態の安定につながりました。

先日、世田谷のお宅を訪れ、奥様とゆっくりとお話をさせて頂きました。先生のお写真が仏壇横に置かれていて、何につけてもそちらを向いて話が始まってしまうので、結局は3人でお話をしている気になりました。 先生がお元気だった10年程前まで、正月二日にはいつも大勢の卒業生が訪れて来られたそうです、その一人一人を迎えられた先生はこの上なく喜ばれてお酒に浸られたようです。そのご様子を奥様は「大変でしたけど、楽しかったです」とぽつりと語られました。

有難うございました、心からご冥福をお祈りいたします。



六華会 母校で「卒業 60 周年を祝う会」

2017.5.10 [水]

岡田 哲明 (S32 卒)





後列左から4人目が筆者

武蔵工業大学建築学科を昭和 32 年に卒業した 同期生が、5月10日(水)母校を訪れ、卒業 60周年記念同期会を開催しました。

卒業した58名の約半数は故人となりましたが、今なお壮健な13名と4名のご夫人、計17名が参集しました。母校へは卒業以来という会員も何人かいました。

「六華会」という名称は、昭和38年、恩師蔵田周忠先生を同期会にお招きした際に命名していただいたものです。以後、数年おきに集まる程度でしたが、平成元年からは毎年開催して参りました。会の特徴は夫人同伴を奨励していることと、地方在住の会員にお世話を願い、北は北海道知床から南は沖縄本島まで、全国各地で開催してきたことです。今回は、卒業60周年という節目でもあり、「母校へ行ってみよう」ということになりました。

若い後輩諸君には想像もつかないと思います から、僕たちの学生時代の様子を少し紹介し てみましょう。

当時、キャンパスの周辺は一面の畑で、多摩川の堤防までの間には一軒の家もなく、入学式のときは長閑にヒバリがさえずっていました。校舎は平屋の実験棟と階段教室、それに2F建の木造教室棟、所々雨漏りがするのです。3 学年の終り頃に最初の4F建RC造の校舎(現存せず)が出来た時はまぶしく感じたものです。グランドは雑草の原っぱでした。

学部は電気、通信、機械、土木、建築の5学部。 学生は地方出身者が多く、殆どの学生は詰襟 の学生服に角帽、革靴、革の手提鞄で通学し ていました。無帽でワイシャツにセーターか ジャケットで4年間通した僕は異端でしたね。 どの学部にも女子学生は一人も居りませんか ら黒一色、じつに殺風景。カラフルな昨今の 男女学生諸君が羨ましい限りです。

通学路線の東急大井町線の電車は2両連結、電車の揺れと吊り革の周期が一致すると丸い取手が網棚に当たって一斉にチャン、チャン、チャンとリズミカルに鳴るのです。 尾山台駅から環八までの商店街は、八百屋、魚屋、肉屋、床屋、そば屋、など、住民相手の店舗ばかれる。神田界間の学生街と違っ

無産、内産、床産、では産、など、住民相子の店舗ばかりで、神田界隈の学生街と違って、古本屋、麻雀屋、パチンコ屋、喫茶店がありませんでした。環八から学校までの下り坂の両側は立派な住宅地で、多少細分化されましたが、雰囲気はあまり変わっていないようです。

閑話休題、会の報告に戻りましょう。

14 時、学生食堂「さくらセンター」M2 階のカフェに集まった一同は、図書館などの立派な施設の数々を見学し、母校の発展をうれしく思うと同時に、今昔の感を抱かずにはいられませんでした。

15時、1号館13K教室で、三木学長、勝又建築学科主任教授、吉田校友会長、山岡如学会長、中村三八会代表からご祝詞やら、キャンパスの現況のご報告やらのお話を承り、16時、1号館4階の職員食堂「ラウンジ・オーク」に席を移して祝宴となりました。祝宴には、諸先生方を始め、校友会職員の方々や如学会員、たまたま研究室にいた学生・院生諸君も交えて和やかなうちにも楽しく祝宴を終えることが出来ました。有難うございました。

参加者:猪俣昭久、上田義之、太田重威、岡田哲明 梶田更正、同夫人、木幡裕充、同夫人、園田繁夫、 竹野忍、田中積、中島伍一、同夫人、西山喜一郎、 春田善昭、八塩久夫、同夫人、

REPORT

LED 照明ラボラトリー 「CO-LAB」 東芝ライテック技術見学会

2017.06.22 [木]

植谷 英子 (H14 卒/山岡嘉彌デザイン事務所)



■当日は、大学生9名(東京都市大学7名、も のつくり大学2名)を含む19名が参加した。

東芝の LED 照明ラボラトリー「CO-LAB」は、

2か所に分かれており、それぞれ「Site01」、 「Site02」という名前がついていた。

■東芝 LED 照明ラボラトリー「CO-LAB」

虎ノ門ビルディング1F

写真:露木 博視(S55 卒)

日時: 2017年6月22日(木) 15:00-17:00

東芝 LED 照明ラボラトリー「CO-LAB」

・「SiteO1」では、洋服売場、生鮮食品売場、病室、 リビングなどのモックアップが置かれ、実際に LED 照明の空間を実験・体感できるものとなっ

・「Site02」では、LED についての講義が、実例 を交えて行われた。

■スケジュール

15:05-16:20

主催:如学会

「SiteO2」に於いて、スライドショーによる LED 照明の基礎講座・施工例の紹介。ハロゲン 光源等との比較による光の見え方について検証 16:20-16:30

上記に対しての質疑応答

16:30-17:00

「SiteO1」にて住宅・店舗・オフィス等エリア別 に見学。色温度や演色性による明るさ感を体感 17:00-17:20

ショールーム見学に関しての質疑応答

■「Site02」にて LED 照明の基礎講座・施工例の

ハロゲン光源等との比較による光の見え方につい て検証

(1) LED 照明の基礎講座

講座は、照明の基礎の基礎である白熱電球、蛍 光灯、LED 電球の発光のしくみと演色性の違い、 発光効率について詳しく説明があった。

LED 電球の特徴として、もともと赤色を持って いないので、赤色をうまく見せることが難しい らしい。そこで、高い演色性の求められる場所 に使用する LED については、

①赤色LED、青色LED、緑色LEDの3原 色を使用して白色発光させているもの。

②黄色発光体の波長をながくして赤色をより綺 麗にみえるように調整したものを使用している ものの2つを使用しているそうだ。各社の企業 努力により、舞台照明や高い演色性を求められ る箇所の照明には、Ra 98 程度ある LED 照明が 開発済みということであった。

(2) 施工事例の紹介

東芝の照明技術プロによる舞台照明の施工事例 について説明があった。

(3) ハロゲン光源等との比較による光の見え 方について検証

赤色の布、ゴールドの布、青色の布に実際に演 色性 Ra 96 の舞台照明用 LED 電球と演色性 Ra 100のハロゲン電球を交互に布に当てて、実際 にどう見えるかを見せてくれた。

演色性の高い Ra 96 の LED 照明を使っている だけあって、赤色も綺麗に発色しているように 見えた。だが、赤色の布の発色性については、 ハロゲン電球の方がより良く感じられた。 逆に青色の布とゴールドの布に関しては、LE D電球の方がハロゲン電球よりもよりよく見え た。

■「Site01」にて住宅・店舗・オフィス等エリ ア別に見学。

色温度や演色性による明るさ感を体感

「SiteO1」に移動して、リビングや子供部屋、 店舗、オフィスなどの実際のモックアップにお いて色温度や演色性の違いによる見え方や明る さを体感することができた。

中でも特に興味深かったのは、スーパーの照明 展示モックアップで、鮮魚コーナーに青色がよ く映るように青味を強くした照明が設置されて おりお魚を新鮮そうに見せていた。逆にお肉 コーナーでは、赤色が良く映るように赤みをよ り表現できる LED 照明が設置され、お肉を美 味しく見せていた。

お肉コーナーの照明を鮮魚に当てると、お魚が とたんに腐りかけのように見え、お魚コーナー の照明をお肉に当てると、お肉がまずそうに見 えたのを体感できたのがとても興味深かった。

■照明の演色性。日常の生活において 洗面所で普段化粧をしている。我が家の洗面所 には2種類の照明があり、全般照明は蛍光灯。 鏡の前の局所照明は、白熱電球だ。今回の講座 を聞いてわかったことだが、蛍光灯の演色性は 演色性 Ra 60 程度。白熱電球の演色性は、Ra 100だ。いままで蛍光灯の下で化粧をすると顔 色が悪く見える気がしたので、蛍光灯をわざと 消して白熱電球だけで化粧をしていたのだが、 今回の講座をきいて演色性の違いだったのかと

次に我が家の食卓の照明だが、おそらく初期型 のLEDを付けている。これまた料理が美味し く見えない。LED 電球のなかでも演色性の高い 照明に変えて、すこしでも美味しく見えるよう にしたいものだと思った。

何気なく取っていた普段の行動に、合点がいっ

■東芝 LED 照明ラボラトリー「CO-LAB」技術 見学会に参加して

今回技術見学会に参加する前の LED の印象は 漠然としたものであったが、参加後は見違える ほど知識も意識も変わった。照明の基礎の基礎 から東芝の照明計画のプロに教えて頂き、大変 勉強になった技術見学会だった。



「赤レンガ卒業設計展 2017」ポスター



公開講評審查会風景



「赤レンガ卒業設計展 2017」が横浜赤レ ンガ倉庫 1 号館にて 3 月 16 日から 20 日ま で開催されました。第14回目の今年は東 京都市大学を幹事校に、17大学21学科が 参加し、200点もの作品の出展がありまし た。会場が横浜を代表する観光スポットだ けあって、建築関係者だけでなく一般の観 光客も多くつめかけ、大賑わいの1週間と なりました。

今年は「Archi×archi」というテー マを掲げ、企画運営を行いました。建築 学生の集大成である卒業設計の作品を 「Architecture」として展示し、作品を通じて、 建築学生の世の中に対する建築の考えやア イディア、経験を「Archive」として、鑑賞 していただいた方々の記憶や心に発信して いくことを目指して開催しました。

3月20日に行われた公開審査会は、同会 場の3階大ホールにて行われ、5人の先生 方にご出席いただきました。午前中は巡回 審査による1次審査が行われ、2次審査会 の10作品を選出しました。午後は3階の 大ホールに会場を移し、10選からグランプ リを決める2次審査会が行われました。選 出者は3分のプレゼンテーションを行ない、 その後審査員による質疑応答へと続きまし た。限られた時間の中で、発表者自身が卒 業設計で考えたことを先生方、観覧の方々 に向けて時間一杯まで熱弁し、審査員の先 生方同士の白熱した議論の中でそれぞれの 作品が様々な角度から評価されていきまし た。4時間にも及ぶ議論の末、結果は右記 のようになりました。

昨年の9月から、自分を含め実行委員総 勢 98 名で準備してきたこの卒業設計展です が、成功のうちに終わり大変嬉しく思って います。何より他校の建築学生との交流は 自分にとっても刺激的で、本設計展に関わ れたことは自分自身成長することができま

した。学校では得られない多くの事を経験

させていてだき、この赤レンガ卒業設計展

に携わっていただいた全ての方々に感謝し

この紙面をお借りして御礼を申し上げます。 本当にありがとうございました。

赤レンガ卒業設計展 2017

審査委員長

ております。

赤レンガ卒業設計展 2017

 $\lceil Archi \times archi \rceil$

2017.03.16 - 03.20

吉川 瑞樹 (H28 卒/東京都市大学・福島研究室)

小川晋一氏 (小川晋一都市建築設計事務所)

審查委員一覧

猪熊純 氏 (成瀬・猪熊建築設計事務所) 藤村龍至 氏 (RFA)

(明治大学理工学部専任講師) 門脇耕三氏

連勇太郎氏 (モクチン企画)

表彰者一覧

最優秀賞 野村健太郎(理科大工学部) 優秀賞 小久保友貴 (明治大学) 優秀賞 (理科大工学部) 近藤引起 (工学院大学) 小川賞 阿曽弘佳 猪能當 大山直人 (明治大学) 藤村賞 平田柳 (理科大工学部) 門脇賞 児林幸輔 (日本大生産工) 連賞 佐藤康行 (理科大理工学部)

出展大学

東京都市大学 / 神奈川大学 / 共立女子大学 / 首都大学東京/東京工業大学/東京電機大学/ 東京理科大学 エ・理工/日本大学海洋・生産・ 理工/日本女子大学/法政大学/前橋工科大 学/横浜国立大学/昭和女子大学/工学院大 学/東海大学/明治大学/武蔵野大学

参加者:阿部寧(S38)、青柳浩男(S40)、井上富美子(S48)。 丹羽譲治 (S48)、露木博視 (S55)、植谷英子 (H14)、岸田 明子、渋谷高陽、田島恭子、山本出、山本悠佳、金川直樹、 城所友莉奈、小原あかり、蔵光裕、近藤来美、齊藤直也、 玉井宏通、水島峻

□開催の主旨: この企画は「就活に当り OB・OG と学生の皆さんとが本音で語り合う "コミュニケーション"の場」であり、「学生個々人と大 学 OB・OG との繋がりを大切にしてきた本学の精神の表現の場」でもあります。就職を希望する学生の皆さんが、様々な分野

に進まれ活躍する OB・OG の方々と直接本音の話ができる場として、第5回目を開催することと致しました。

学生の皆さんにとって「幅広い建築の実業社会を知る絶好の機会」であり、また「一人では不安な就職問題について大学 OB・

OG が親身になって相談に乗ってくれる場」でもあります。是非積極的に参加してください。 ※学生の方は平服でご参加ください。いわゆる「リクルートルック」である必要はありません。

□実施プログラム (予定)

業種別仕事紹介 13:00-15:45 5 号館 1 階「小講堂」

学科教室の先生から就職の流れ、大学院への進学手順の説明の後、以下の業種について OB・OGの14人の講師の方々から概略をお話しいただきます。

	[業種名]	[企業名]	[講演候補者(卒業年)]
1	官公庁等	横浜市	馬立歳久 (H03)
2	アトリエ設計事務所	手塚建築研究所	矢野健太 (H25)
3	構造設計事務所	建築構造研究所	高橋修一 (H20)
4	組織設計事務所	NTT ファシリティーズ	北口英紀 (H06 院)
5	総合建設会社(設計)	長谷エコーポレーション	西山 隆 (H16)
6	総合建設会社(施工)	大本組	石川宣文 (H07)
7	環境・設備関連	西原衛生工業所	青木一義 (S51)
8	ハウスメーカー	大和ハウス	渡部善光 (H18)
9	インテリア・ディスプレイ	乃村工藝社	中澤典紀 (H21)
10	技術・材料関連	旭ビルウォール	島田 大 (H03)
11	鉄道・不動産・ディベロッパー関連	東急電鉄	森川 敏 (H23)
12	エネルギー	東京電力	吉田龍平 (H19)
13	マスメディア・情報関連	トランス・コスモス	二口明日香(H17 院)
14	海外留学・海外就職	SOGO 建築設計	十河 彰 (H16)

企業別仕事紹介 16:00-17:30 4 号館建築学科棟 1 階「グランドギャラリー」

OB・OG の方々と直接お話をしていただきます。これは学生の皆さんにとって生の情報を 得られる貴重な場となると思います。なお、各ブースはできるだけ多くの OB・OG と交流を いただくために最大 10 分程度毎の入替制を予定しています。

	(五十音順)
官公庁 等	荒川区、神奈川県、川崎市、京都府、台東区、UR 都市機構、横浜市
アトリエ設計事務所	三上建築事務所、手塚建築研究所
構造設計事務所	建築構造研究所、造研設計
組織設計事務所	石本建築事務所、伊藤善三郎建築研究所、NTT ファシリティーズ、久米設計、
	坂倉建築研究所、千代田テクノエース、東急設計コンサルタント、東畑建築事務所、日建設計、
	日本設計、三菱地所設計、松田平田設計、安井建築事務所、山下設計
総合建設会社	安藤ハザマ、大林組、大本組、奥村組、鹿島建設、川口土木建築工業、五洋建設、佐藤工業、
	清水建設、西武建設、銭高組、大成建設、大成ユーレック、髙松建設、竹中工務店、鉄建建設、
	東急建設、戸田建設、飛島建設, 巴コーポレーション、西松建設、長谷エコーポレーション、
	藤木工務店、フジタ、三井住友建設、若築建設
環境・設備関連	新菱冷熱工業、西原衛生工業所、大気社、太平エンジニアリング
ハウスメーカー	住友林業ホームテック、積水ハウス、大和ハウス工業、東急ホームズ、長谷川萬治商店、三井ホーム
インテリア・ディスプレイ	 丹青社、三越伊勢丹プロパティデザイン
技術・材料関連	旭ビルウォール、三晃金属工業、ノザワ
鉄道・不動産・ディベロッパー関連	鈴与三和建物、スターツ CAM、住友不動産、大東建託、東急電鉄、ナイス、森ビル
エネルギー	東急ガス、東京電力
マスメディア・情報関連	建築資料研究社、総合資格、トランス・コスモス、日建教育奉仕会
海外留学・海外就職	十河彰、野澤碧、杉本拓海、新居未陸

懇親会 17:30-19:00 1号館4階「ラウンジ・オーク」

立食形式の懇親会で、参加無料です。第2部でお話し足りなかったことを更にフランクな形で 質疑応答を続けることが出来ます。

お問い合わせ:如学会進路ガイダンス委員会委員長 斉藤博(S44) Mail:toshibunka@t-lx.co.jp

「忙しい人のための3泊5日パリ弾丸ツアー」で充実したパリの旅を満喫

「坂倉準三パリ展」参加と新旧パリの話題建築を 20ヶ所以上見学

2017年4月25日[火] - 29日[土]

東京都市大学建築学科同窓会・如学会 主催 「坂倉準三パリ展」実行委員会 共催

- 1. ルイ・ヴィトン財団美術館/フランク・ゲーリー
- 2. ケ・ブランリー美術館/ジャン・ヌーベル
- 3. カルティエ財団現代美術館/ジャン・ヌーベル
- 4. サヴォア邸/ル・コルビュジェ
- 5. ロンシャンの礼拝堂/ル・コルビュジェ
- 6. スイス学生会館/ル・コルビュジェ
- 7. ブラジル学生会館/ル・コルビュジェ
- 8. トロカデロ広場、シャイヨ―宮(1937年パリ万博パビリオン)
- 9. フィルハーモニー・ド・パリ/ジャン・ヌーベル(外観)
- 10. フィルハーモニー・ド・パリ/ジャン・ヌーベル (内観)
- 11. シテ科学産業博物館/アドリアン・ファンシルベール

- 12. シテ・ド・ラ・ミュージック/クリスチャン・ド・ポルザンパルク
- 13. コンセルヴァトワール/クリスチャン・ド・ポルザンパルク
- 14. シテ・ミュージカル/坂茂
- 15. ラ・ヴィット公園/バーナード・チュミ
- 16. パリ・グランドホール (元・食肉市場を改修) / P. シェ& J.P. モレル
- 17. ポンピドゥーセンター/レンゾ・ピアノ+リチャード・ロジャース
- 18. フォーラム・デ・アル改修/ジャン・ヌーベル
- 19. 「坂倉準三パリ展」シンポジウム (パリ日本文化会館)
- 20. 「坂倉準三パリ展」オープニングレセプション参加(パリ日本文化会館)
- 21. パリ日本文化会館/山中昌之+ケネス・アームストロング
- 22. 「パリ博日本館」1937年当時の建築跡地検証











































如学会主催・校友会・柏三水会・坂倉準三展実行委員会共催

「坂倉準三パリ展」参加とコルビュジェ作品+最新建築視察ツアー

パリ万博日本館の設計で建築家・坂倉準三は〈建築グランプリ〉を受賞(1937年)

今回は、その80周年記念で「坂倉準三パリ展」がセーヌ河畔のパリ日本文化会館で4月26日から7月8日まで開催された。

(他に添乗員1名計20名)

4月25日(火)



1)パリ日本文化会館







3)ルイ・ヴィトン財団美術館



Report









(9)スイス学生会館

1-4 宿泊ホテル (3 泊): Novotel Paris Centre Eiffel Tower (★)

4月26日 (水)

2-1 サヴォア邸 (ル・コルビュジェ) ②

パリ最初の建築見学は、パリ郊外のポワシーにある、昨年世界遺産 にも登録されたサヴォア邸。広大な敷地の周辺は樹木で囲まれ、そ の内側に敷きつめられた芝生の上に美しい姿で建っていた。

今回のツアーは、「坂倉準三パリ展」実行委員会との共同企画です。 参加者も坂倉建築研究所関係者10名、如学会関係者9名とほぼ同数です。

1-1 成田空港 総勢 19 名。11:00 発エールフランス航空 275 便にて、

1-2 シャルル・ド・ゴール空港 16:30 パリ着。12 時間 30 分の飛行時

1-3 まずは、ホテルに直行し、直ぐパリ日本文化会館(①)へ向かい、

カクテル・パーティに参加、「坂倉準三パリ展」を見学。

間にもかかわらず、全員元気にパリの地に立った。

パリに向けて出発。(1名はパリで合流)

2-2 ルイ・ヴィトン財団美術館 (フランク・ゲーリー) ③ 昨年六本木の「21_21」で開かれたゲーリー展覧会で見た模型が実 際に目の前に現れた。「ゲーリー・テクノロジー」に基づいて形成さ れた奇想天外な形はとてつもなく大きく、迫力が半端ではなかった。

2-3 **ラ・ロッシュ・ジャンヌレ邸** (ル・コルビュジェ) ④ 建物は普通の住宅街にあった。外見は1つの建物に見えるが、ラ・ロッ シュ邸とジャンヌレ邸の2つの邸宅で構成されている。



4月27日(木)

27日は、夕方まで「パリ市街地見学組」と「ロンシャン見学組」の二組に 分かれての行動となった。「ロンシャン見学組」は、朝6時に出発しTGVに 乗り、ロンシャンへと向かった。

【パリ市街見学組】

3-1 ポンピドゥーセンター (レンゾ・ピアノ+リチャード・ロジャース) ⑤ むき出しのパイプとガラス面で構成された外観は、工事現場を彷彿 とさせる。「20世紀を代表する三大名建築」のひとつに称されたア バンギャルドのこの建築は、21世紀になっても今なお存在感を放ち、 パリの最大の名所として多くの観光客を惹きつけている。











多目的コンサート・ホール、クラシック音楽ホール、音楽教育施設、レストラン、住宅、公園等で 構成されている。外観のガラス張りドームは、木を使った架構で支えている。セーヌ川に浮かぶセ ガン島に建つ姿は船の様である。円弧状の外壁の一部はソーラーパネルで、太陽の動きについて 「ひまわり」のように移動する。

露木博視 (S55 卒) /イラスト:露木沙弥香 (H25 卒) ロンシャン資料・コメント提供:李野 (坂倉建築研究所)

3-3 フィルハーモニー・ド・パリ (ジャン・ヌーベル) ⑦

ラ・ヴィレット公園にある近代的コンサートホール。外装のにぶく光る、エッシャーを想わせる飛 ぶ鳥をイメージした(?)34万枚のアルミパネルが特徴。建物に近づくにつれ迫力が増して来る。 【ロンシャン見学組】

3-4 ベルフォール・モンベリアール駅 (AREP) 16 光と木につつまれた、駅なのに駅でないようなくつろぎを感じさせる場所。

3-5 ベルフォールの古い街並み(7)

3-2 シテ・ミュージカル (坂 茂) ⑥

ベルフォールは古い街で、中央の広場に面してピンク色の砂岩の外壁をもつサン・クリストフ大聖堂 という教会があった。

3-6 ロンシャン礼拝堂 (ル・コルビュジェ) 18192021

ロンシャンの発想は、案内によると蟹ガラより得たとのこと。上の屋根はコンクリートである。 礼拝堂内部は、明と暗の対比、大と小の対比(空間、窓)、塔による些細な光と荒い壁の対比で構成 されている。

【ここで二組合流】

3-7 クラシックコンサート鑑賞®

「フィルハーモニー・ド・パリ」内のコンサートホールにて、『ジェームズ・ガフィガン(指揮)、 アルカディ・ヴァオロドス(ピアニスト)&パリ管弦楽団:チャイコフスキー&ブラームス』を鑑賞。 ジャン・ヌーベルも力を入れた最高水準の音響効果が体験できた。

4月28日(金)

4-1 スイス学生会館 (ル・コルビュジェ) ⑨

「国際大学都市」内にある学生寮。1階をピロティで持ち上げていて、サッシュのガラス面を前面に 出している。内部個性は、使い勝手の良さそうな造り付け家具がレイアウトされている。

4-2 ブラジル学生会館 (ル・コルビュジェ) ⑩ 同じ「国際大学都市」内にあるこの学生寮も現在も使われている。1階はピロティと同じだが、ス イス館の20年後に建てられたこちらの方が若々しく感じる。

4-3 カルティエ財団現代美術館 (ジャン・ヌーベル) ①

カルティエ財団の現代美術館であり、ジャン・ヌーベルの初期の傑作。建物周囲は木や植物が茂っ ており、ガラスと植物の緑のコントラストが面白い。そして、ガラスの透過による緑の実像とガラ スの反射による虚像がイリュージョン効果で目を錯覚させる。

4-4 パリ万博日本館跡地検証⑫ パリ万博日本館⑭⑮

跡地は現在公園となっており、1937年万博会場に坂倉準三氏設計により建てられた「日本館」の 痕跡はなかった。ただ、図面を基にエッフェル塔辺との位置関係など、議論は熱く行われた。

4-5 **ケ・ブランリー美術館** (ジャン・ヌーベル) ⑬ アジア・アフリカ・アメリカ・オセアニア(つまりは欧州以外)を中心とした国立の民俗博物館・美術館 ガラス張りでカラフルな箱が飛び出した外観は印象的です。

4-6 シャルル・ド・ゴール空港 エールフランス航空 274 便にて、成田空港に向け出発。

4月29日(土)

5-1 成田空港 18:20 着。全員無事帰国。

おわりに(謝辞)

今回の見学ツアーで短期間にもかかわらず 20ヶ所以上を無事見学することができました。 これも3泊5日の旅を同行していただき、 連日昼食はバスの中のサンドウィッチで 済ませるなど強行なパリ弾丸ツアーに対応 して下さった「トラベルプラン」の酒井春生 様のお陰です。深く感謝申し上げます。

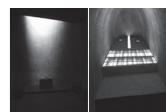












20 ロンシャン礼拝堂(塔を見上げる)





「建築100人展2017・図書館展・大学展」

卒業生100人の社会における活動を紹介します

会場:建築学科棟(東京都市大学世田谷キャンパス4号館) 開催スケジュール:2017年11月4日[土]-11月5日[日]

11/2 [末]	11/3 (金)	11/4 [±]	11/5 [H]	11/6 月
出展作品搬入日午前中必着 ●直接の作品持ち込みは、10時-13時を目処にお願い致します。 ●郵便・宅配でも受付11/2 [木] 着 厳守※着払いは不可	会場展示作業 ◆大学内への車両の入構は出来ません。 お車で搬入される場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。 近隣のコンビニエンスストアの駐車場は、ご利用なさらないですい。	東京都市大学「建築100		出展作品搬出日 (搬出される方のみ) ●「浅草展」への巡回を希望されない方は事前にご連絡の上、この日にお引き取り下さい。
	東京都市大	。 学「建築100人展2017・図書館展」		
送付先:〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 東京都市大学建築学科 鈴木》 090-8052-0945	告 宛	オープン: TCU祭1日目	キャンパス TCU祭2日目 ホームカミングデー	

「100 人展」は、卒業生の様々な仕事の成果の発表の場、自己表現の場であるのみならず、同窓の再会の場であり、 お祭りでもあります。他大学に類をみないこのユニークな展覧会に、出展の有無にかかわらずご来場下さい。 作品を鑑賞しつつ昔の友人たちと久々の出会いと親睦を深めましょう。

■開催日程/大学展

場:建築学科棟1階グランドギャラリー(製図室)

展示期間: 2017年11月4日[土]-11月5日[日]10:00-18:00入場無料

郵送·宅配:11月2日[木]着厳守

搬入・展示:11月3日[金]搬出:11月6日[月]

(3日、6日は大学内への車両の入構は出来ません。お車で搬出入をされる場合は、近隣の 有料駐車場をご利用ください。宅配での搬入、着払いでの返送も受け付けておりますので、

お申し付け下さい。宅配の際に返送用の送り状を同梱下さい。)

今年度より「進路ガイダンス」に先駆け、「企業紹介パネル」のコーナーを新設します。

進路ガイダンス (11月22日) に先駆け、学生に企業を紹介。

■開催日程/浅草展 (巡回展)

場:隅田公園リバーサイドギャラリー 東京都台東区花川戸 1-1

アクセス 東京メトロ銀座線・東武伊勢崎線・都営地下鉄浅草線「浅草」8番出口より徒歩2分 オープニングパーティ:2017年12月1日[土]18:00-20:00 ※会場は未定 **ギャラリートーク:隅田公園リバーサイドギャラリー** 会期中に出展者の作品解説があります。 日程は、メールマガジン、如学会 HP にてお知らせします。

展示期間: 2017年12月2日[土]-10日[日]9:00-20:00 入場無料

搬入:12月1日[金]

搬出:12月11日 [月] 9:00-20:00



「建築 100 人展 201 7・図書館展」ポスター 10月7日(土)より11月5日(日)まで 世田谷キャンパス図書館で図書館展を開催します。 10周年記念誌を141%拡大して布に印刷して掲示します。 学生 3 研究会の 2016 上野浅草展で発表した 提案も展示します。

「建築100人展2016・大学展」









主催:東京都市大学建築学科同窓会•如学会 共催:東京都市大学建築学科、校友会 後援:台東区

「建築 100人展2017·浅草展」

巡回展を「隅田公園リバーサイドギャラリー」にて開催

開催スケジュール:2017年12月2日[土]-12月10日[日]

会場:隅田公園リバーサイドギャラリー

12/1[金]	2 [±]	3[目]	4 [月]	5四	6 [zk]	7 [未]	8[金]	9 [±]	10 [=]	11 [月]
出展作品搬入日	5				異2017・浅					出展作品搬出日
●模型出展希望 者は、その旨 を申し出の上、 自らで搬入し て下さい。		属出公園	リバーサイドギャラリ			隅田公園リハ	サイドギャラリー:	內 觀		●模型出展者は、自らで扱出で搬出でででででででは、 で対すでででででいる。 で頭用である。 で郵送いたしてする。
9:00-20:00 出展作品搬入	18:00-20:00 オープニング パーティ (無料)	初日の「オ- 多くの方々な	をご招待します。	,	スコミ関係、建				間など	9:00-20:00 出展作品搬出





「建築 100 人展 2015・10 周年記念誌」 W=205mm H=205mm D=15mm 頒布価格(1冊) 如学会会員: 1,500 円 如学会会員以外: 2.000 円 残り僅少となりました。

■出展料:7,000円

(如学会会費未納者は会費+出展料+掲載料=10,000円)

※事前納入を原則とさせていただきます。10月20日[金]までに必ずお振込み下さい。 ※振込先 口座名「如学会」ジョガクカイ みずほ銀行 自由ヶ丘支店 普通口座: 1779875 ※出展料は、展覧会運営費・広報費として活用させて頂きます。

■郵送・搬入先:〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 東京都市大学建築学科 4 号館 2F(鈴木浩宛)(11 月 2 日 [木]着 厳守)

■出展希望・問合せ(連絡先)

建築 100 人展実行委員長 丹羽譲治 E-MAIL: 100ninten2017@jogakkai.jp

※氏名、卒年、所属、連絡先をお知らせ下さい。申込書などをお送りいたします。

■主催:東京都市大学建築学科同窓会・如学会

■共催:東京都市大学建築学科教室

■後援:台東区

■出展にあたりご留意いただきたいこと

1. 代表作、新作の出展、絵画、スケッチ、写真など建築の分野の作品に限ります。

2. 出展パネルは、「大学展」「浅草展」ともに A1サイズを基本とします。 大学展では A1 サイズ 2 枚に限らせて頂きます。浅草展は会場が広い (770 ㎡) ので 希望枚数を事前に丹羽まで申告して下さい。多数の卒業生のご出展を歓迎します。

3. 模型は、「大学展」「浅草展」ともにご自身の搬出・搬入が原則となります。 「大学展」から「浅草展」へ転送を希望される方は、丹羽までお知らせ下さい。

4. 「大学展」及び「浅草展」の一括開催となります。「浅草展」のみの出展は、 お受け致しかねます。「大学展」のみの展示をご希望の場合は、お申し付け下さい。 出展された作品は「大学展」終了後、保管・搬送の上「浅草展」に展示致します。

「建築100人展2016・上野浅草展









2010

教室:11F教室

教室:11F教室

1 時限 (13:00~1<u>4:10)</u> 浅井アーキテクツ

浅井百合氏 (H19年) 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 2008 2009 半年間 Claus en Kaan architecten

でインターンシップ(オランダ) 横浜国立大学大学院 Y-GSA 修了 新居千秋都市建築設計(-2013) 浅井アーキテクツ設立

[テーマ] マルチプレイヤーになろう

1時限 (13:00~14:10) オフィス露木

露木 博視氏 (\$55 辛) 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 2008 (広瀬研究室)

1980-96 株式会社山内設計室 一級建築士事務所オフィス露木設立 1996 2009 FMC株式会社 設立

[テーマ] FMとBIM

1996

1998

2004

2010

2013

1時限(13:00~14:10)

[テーマ] 大学教員の仕事

1時限 (13:00~14:10)

(大須賀研究室)

森ビル(株)

森ビル

近畿大学 准教授

長澤康弘氏 (HO8 卒)

武蔵工業大学工学部建築学科卒業

武蔵工業大学大学院工学研究科

武蔵工業大学建築学科技術職員 (-2006) 駒沢女子大学非常勤講師 (兼務) (-2006)

多士課程修了 (近藤研究室)

鹿児島大学工学部 助教 (-2014)

近畿大学建築学部 准教授

東急建設(株) (-2000)

新井章邦_{氏 (S63 年)}

武蔵丁業大学丁学部建築学科卒業 2000

都市開発事業本部第一設計部設計企画 G 課長 2002-

設計本部建築設計部プロジェクト設計 G 課長

設計部建築設計 1 部·設計推進部 部長

清水 毅氏 (S62 卒)

武蔵工業大学院工学研究私建築学

専攻修了(江口研究室)

同社 東京支店 企画部

「テーマ] 建築施工を通じて伝えたいこと

清水建設(株) 建築本部配属

設計統括部設計推准部 部長

兼 都市再策企画室

兼 都市政策企画室

[テーマ] 森ビルの都市づくり

1時限(13:00~14:10)

清水建設

(江口研究室)

3 時限 (15:40~16:50) 2 時限 (14:20~15:30) 久米設計 三上建築事務所

田中祐太氏 (H21 卒) **武蔵工業大学工学部建築学科卒業**

武蔵工業大学工学部建築学科卒業 東京都市大学大学院工学研究科

[テーマ] 地方組織設計事務所での仕事

武蔵工業大学大学院工学研究科 2011 建築学専攻修了 (株)= 上建築事務所 建築設計室 設計の日 討論会

4 時限 (16:50~17:30)

『学生と社会人の違い』

左記3名による討論会 司会: 栗田 祥弘 (H10 卒)

2 時限 (14:20~15:30) 建築構造研究所

高橋 修一_{氏 (H20 卒)}

平田 駿_{氏 (H20 卒)}

建築学専攻修了(新居研究室)

設計本部 建築設計部 主杳

[テーマ] 昨今における建築設計を考える

(岩崎研究室)

(株) 久 米設計

武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (大村研究室) University of East London Pre-Sessional English Course 卒業 University of East London Architectural and the Visual Arts

Diploma Architectural Design (株) UAA 東京 (-2012) (株) SK 企画 (-2013)

[テーマ] デジタルツールを使ってみよう

3 時限 (15:40~16:50) SOGO 建築設計

十河 彰_{氏 (H16 卒)} 武蔵工業大学工学部建築学科卒業

東京藝術大学大学院修了 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 大学院修了(フルブライト奨学生) 2009-新居千秋都市建築設計(-2015) SOGO 建築設計 共同主宰

東洋大学建築学科設計アシスタント 東京都市大学非常勤講師

[テーマ] 建築からの学び

4 時限 (16:50~17:30)

BIM の日 討論会

『ツール:使う側、使われる側の分岐点』

左記3名による討論会 司会:桑原茂(H06卒)

2 時限 (14:20~15:30) 新菱冷熱丁業 大槻健吾_{氏 (HO8 卒)}

1996 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (沂藤研究室)

新菱冷熱丁業㈱ 千葉駅ビル建替え工事の現場に

[テーマ] 建築設備に携わり20年

2 時限 (14:20~15:30)

東急電鉄

3 時限 (15:40~16:50) 日建設計

川口佳子_{氏 (H18 卒)} 2006 武蔵工業大学工学部建築学科卒業

(宿谷研究室) 武蔵工業大学院環境情報学研究科 環境情報学専攻修了(宿谷研究室) (株)テーテンス事務所(設備設計部) 娘の出産をきっかけに主に保育園、幼稚園、

養護施設を担当するようになる (株)日建設計 設備設計部

[テーマ] 母親目線の建築環境設備

環境の日

4 時限 (16:50~17:30)

『20 年後の環境・設備』

まちづくりの日

討論会

に求められる"領域を超えた職能

左記3名による討論会

司会:斉藤博 (S44 卒)

「都市・まちづくり」のプロデュース

左記3名による討論会 司会:小笠原岳(H11卒)

4 時限 (16:50~17:30)

3 時限 (15:40~16:50)

横浜市 馬立歳久_{氏 (H04 卒)}

1992 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 東京藝術大学美術学部大学院美術 研究科修士課程建築専攻卒

村上徹建築設計事務所 (-2000) 2001-マダチ建築アトリエ (-2010) 東京工芸大学建築学科非常勤講師 2006-

2010-横近市

[テーマ] 横浜の郊外住宅地、住民・企業・大学・行政 の協働によるまちづくり

4 時限 (16:50~17:30)

2 時限 (14:20~15:30)

打矢潤市_{氏 (H12年)}

(谷口・天野研究室)

亩立争行雪鈝(株)

[テーマ] 東急電鉄のまちづくり

修士課程建築学専攻修了

武蔵工業大学工学部建築学科卒業

武蔵工業大学大学院工学研究科

東急建設

田村健二_{氏 (S57 卒)} 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 武蔵丁業大学丁学部建築学科卒業 1996

1087_ **車急建設(株) 横近支広配屋** 1989 同計 東京支店 現在に至る

[テーマ] 渋谷が変わる!渋谷を変える!

村上博昭氏(HO8 卒) 武蔵工業大学工学部建築学科卒業

日建設計

(濱本研究室)

1998 亩立工業大学大学院総合理工学 研究科修士課程修了 (株)佐々木睦朗構造計画研究所 (株)日建設計 ファサードエンジニアリング室長 現在

兼 構造設計部 技師長

[テーマ] インテグレーション

施工・構造の日 討論会

『建築における積分と微分 (統合と分化) のチカラ」

左記3名による討論会 司会:山岡嘉彌 (S46 卒)

最終日 18:00 ~ 20:00 特別講義講師陣と受講学生との懇親会/会場:1 号館4階 ラウンジ『オーク』

第12回 如学会寄付講座「特別講義(1)建築の実務] 15 人の卒業生が充実した講義を展開

特別講義委員長 青柳浩男 (S40 卒)

今年も暑い中、建築学科教室と如学会の共催による特別講義が前半8月1日、2 日と後半7日~9日で計5日間に実施されました。講義は主に2年生が対象で2 単位取得の選択科目です。講義は卒業生が講師になり、実社会で各職場の最前線の 情報や卒業してからの体験の話は、現役学生に取って多様な建築の活躍の場やその 楽しさ、厳しさなど社会における役割を学べる参考の講座になっています。他校で は類の見れない特別な講座で今年開催で12回目になります。

今年度は一日で70分の3講座と4時限目にその日の講師と司会で40分の討論 会を開催しました。開始時間は講師、学生の負担の少ない午後から行いました。講 座は建築の各テーマを設定して一日目は「設計の日」、二日目は「BIMの日」、三 日目は「環境の日」、四日目は「まちづくりの日」、五日目は「施工・構造の日」と して、講義の組立てをバランスよく揃えることが出来ました。そして討論会では各 テーマについて 3 講師のそれぞれの立場からの異なった興味深い回答や講義では語 れなかった実務の体験談、学生時代の過ごした話など、そして学生からは積極的に 多くの質問で盛り上がる場になりました。

今年度の講師 15 名は卒業 10 年前後 6 名、20 年前後 5 名、30 年後 4 名で色々な 職場の方や幅広い世代間の方にして頂きました。これまで講義した如学会会員は延 160名になりました。講義をされた講師は今までの自分の仕事の整理が出来たり、 学生時代を振り返り母校の恩返しなる言って頂いています。如学会では、如学会会 員の皆様に講師になって頂ける方を募集(自薦、他薦は問いません)しています、 皆様の応募をお待ちしています。なお今年もこの特別講座は大変勉強になると言っ て、卒業生が平日に係わらず休暇を取って聴講される方々がいらっしゃいました。

最終日講義終了後に一号館「ラウンジ・オーク」で受講した学生と 11 名の講師、 如学会役員などで懇親会を開催し、学生は講師を取り囲んで講義で聴けなかった 事を積極的に質問したり、就職活動の頼もしい相談相手になり、学生とOB・OG にとって楽しい交流の場になりました。

最後に、ご多忙中に資料作成など時間を割いて頂きました講師、サポートして頂 いた如学会の皆様、このような機会を設けて頂きました建築学科教室へ心からお礼 申し上げます。





8月1日(火)

●1時限「マルチプレイヤーになろう」

浅井百合 氏 (H19年) 浅井アーキテクツ

はじめの自己紹介は、作品を通じてのものであった。はじめは、RC 造2階建ての住宅。デザイン力のあることを見せ付ける内容。次は 高砂の集合住宅。デザインだけでない、付加価値を生む住宅も作れ るのヨ。最後は木造壁パネル構造の小屋。なんなら、施工もできる のヨという自己紹介。オマケガ浅井アーキテクツでの仕事ぶり。何 でも一人でこなす姿であることが浮かび上がってくる。抱いた設計 意図が、どのようにして決定されていったのか、そのプロセスを作 品 3 題から説明されたが、浅井さんの脳を覗くようで興味深い話で あった。はじめに、SARAという各階3戸の集合住宅。道路側に少 し振った1戸、奥に2戸を配置し、奥の住戸は道路から引いた設計 としている。道路側住戸と奥の住戸が、どうしてこのような配置に なったのかについて、初めに奥の住戸の採光面積の確保と窓先空地 の確保の制約があり、その結果として道路側住戸の振り角度が必然 的に導き出された旨の説明に、実務家としての姿を見た。

また、前面道路の斜線制限の制約を少しでも排除するため、天空率 計算をしていること、工務店社屋のファサードにいわゆるアルゴリ ズミックデザインを活用していることに、若き設計者像を見た気が した。手書き設計図をCADに置き換えた世代を第一世代、CADをBIM に置き換え建築をTEXTで扱うようになったのが第2世代とすれば、設 計そのものをモデリング・CAD支援で扱うのは第3世代といえる。設 計技術の最先端が垣間見られた貴重な講義である。

そんな才女の最先端の設計話の最後に、落ちネタを聞くことがで き、学生も私もホッとすることができた。それは、亀有香取神社の 設計での話。エスキース、ボリューム模型、1/100模型、挙句は3 DCADの実施設計の結果が、家族のたった一言で設計やり直しとなっ た話である。

浅井百合、そのものが伝わってくる大変すばらしい講義であっ た。最先端の設計は、どうやってしているのかを、丁寧に教えて くれた。(記:米澤昭)

●2時限「昨今における建築設計を考える」

平田駿_{氏(H20卒)久米設計}

自宅が建築家設計の家だったことから、建築家を志した平田さんの講 義録。この年で受賞暦を書ける人は少ないが、彼は本物である。学内 の課題は、学部4年の栗生明賞、卒業設計の蔵田賞と新居千秋賞、修士 1年の岩﨑堅一賞、修士設計の岩﨑堅一賞、また、学生時代にアーキニ アリングデザイン優秀賞、TOSOウインドデザイン優秀賞、社会に出て も東京建築賞、甍賞を受賞している。

才ある人の多くが、ものごとを抽象化して記号として身につける。記 号と文脈、これが平田さんの武器なのだろう。図式とプログラムの関 係については、学生時代から取り組んでいたと言うことであるが、図 式とプログラムの関係を歴史から紐解いたり、建築の範囲に関する 古今東西の定義を整理することで自分の定義を創造しているように 見える。

例えば、2017年の日本建築学会の作品賞の小堀哲夫のROGICについ ては、「棚田」状の低層オフィス空間がモチーフとして定義されてい る。「棚田」状の低層オフィス空間は普遍的で、1991年のレンゾ・ピ アノのオフィス、1996年の日建設計の掛川市庁舎、2007年の日本設計 の日産先進技術開発センターで見受けられると分析した。また、三分 一博志の学会賞を受賞した直島ホールは、環境的アプローチによる造 形・空間の作り方をモチーフとしているが、三分一はこのモチーフを 何度も作品に繰り返すことで受賞に結びつけている。評価のされ方や 建築としての在り方を自分なりの記号と文脈を通して、捉え直してい るだと感じた。

ここまで平田さん個人の設計論を見てきたが、講義後半では、チーム ワークを大切にするというリーダーの姿を示している。それを近代設 計の特徴と理解しているところが素晴らしい。その上で、「建築設 計は一人ではできないが、一人でできることを多くしてゆくことが 大切である」と結んでいる。その1例として、多治見市新火葬場の エスキースから設計意図説明書、特徴となる大屋根の架構方法など について説明を受けた。これからの平田さんに大いに期待するとこ ろである。 (記:米澤昭)

はじめに、三上建築事務所について。同事務所は如学会でも有名な事務所で、卒業生も数多くお世話になっている。茨城県水戸市に本社がある30名規模の組織事務所で、意匠設計室、構造設計室、設備設計室、積算チームおよび技術管理室から構成されている。設計業務は、官公庁庁舎、公立小・中・高校校舎、図書館、武道館、美術館等、県内だけでなく、広く県外でも公共建築物を中心に行っている。作品紹介が半端でなく、圧倒的である。教育施設12カ所、学校12校、図書館等の地域施設9施設を一気に示してもらった。

講義後半は、普段の仕事についての内容だった。設計業務については、工事関係者と模型、エスキース、ホワイトボード、詳細図を用いて、打ち合わせしている様子の写真で説明してもらったが、日々の業務日報や資料整理が素晴らしく、微に入り、細に入る内容である。監理業務については、運動スタジアウムにかけた大屋根に関する内容であったが、土工事から鉄筋、コンクリート打設、詳細模型・CGによる検討、鉄骨工場での加工検査、付属品の選定、組み立て工事まで、休日なく現場に足を運んでいることが伝わる写真点数であった。順を追って説明する写真は具体的で、学生にとっても分かりやすい内容であった。

最後のとりまとめとなる経験談は、時間が足りなく残念であったが、「地方組織設計事務所で働く」ことが、頭の中だけでなく、具体的に毎日、いつも建築設計にたっぷり浸かっている生活の全てを紹介してもらった。仕事を任せ、任された仕事に応えるという仕事の基本、素晴らしさを伝えてもらった講義であった。同時に、静岡生まれの田中さんが茨城で活躍する理由が垣間見られる名講義であった。(記:米澤昭)

●4時限「学生と社会人の違い」

討論会

「設計の日」の講師は平成19年から21年卒の卒業してから7から8年の若い講師であった。司会の栗田氏も平成10年卒と講師の年齢に近く、楽しい討論会となった。平田さんは浅井さんの学生時代の設計を知っていて、尖っていたと評し、平田さんは、田中さんに卒業設計を手伝ってもらい、田中さんは、平田さんから理論的に設計を進める方法に影響を受けたそうです。

山岡会長が教えていた設計の授業で浅井氏は図面と模型を完璧に2案作ってきたことを紹介した。1案に絞れなかったから2案を提出したという。平田氏は3年生の時図式とプログラムに興味を持って設計に生かしている。田中氏は、ある課題をきっかけに設計に目覚めたという。3人3様に学生時代の姿勢を継続し現在に至っていると感じました。

本格的に建築を学ぶ2年生に対する配慮から最後の質問は、「建築をしてて楽しいこと」であった。3人とも楽しくてしょうがない様子で、大変なこともあるけど、設計行為の全てが楽しい。とのことだった。

「学生と社会人の違い」が討論会のテーマだったが、3人とも学生時代にすでに設計する方法を身につけていたように思いました。彼らは、与えられる経験ではなく自ら経験を獲得し、目の前の仕事に果敢に挑戦していて、学生に勇気とやる気を喚起しました。浅井氏は子育てもこなし、とりわけ女子学生にとって目標となったかと思いました。最後に、3人とも蔵田賞受賞者でした。学生時代の勢いを持続している彼らに今後も期待したい。(記:丹羽譲治)

8月2日(水)

●1時限「FMとBIM」

露木博視氏 (S55率) オフィス露木

当初は日建設計:濱田さんにご担当頂く予定でしたが、体調がすぐれないとのことで、急遽露木さんにお願いすることとなった。当日の指名であったにも関わらず大変スムーズな授業を行って頂けましたこと、この場を借りて深く御礼申し上げます。

受講生の多くは「BIM」という言葉すら初めて聞くという。設計課題において2年生までは手描きを重視していることもあって、BIMがもたらしているモノづくり変革をイメージして貰うのは難しいのではない

かと心配していました。企画・設計・施工・管理とあらゆる段階がデジタルによってシームレスに繋がってきている状況の変化を、露木さんが丁寧に解説して下さったことで、その重要性は十二分に伝わったように思う。一つの建築に関わる専門領域は益々広がっている。それぞれが行った検証と解析結果を着実に活用していくには、異なる専門領域の間のしっかりとした連携が不可欠であろう。BIMは双方向の情報伝達が行えるプラットフォームであり、多角的な観点を取り入れていける。BIM化を進めていくことは、建築物の機能性や環境的な価値を高めるだけでなく、施工から保持メンテナンスまでを含めた建築のライフタイムを見据えていく上で重要である。建物へと望まれる価値観が急激に変化している今、BIM無しには社会ニーズに応えていくことは出来ないであろうと締めくくって頂いた。お時間的に最後の討論会にはご出席頂けなかったのはとても残念でした。(記:桑原茂)

●2時限「デジタルツールを使ってみよう」

高橋修─_{旣(H20卒)建築構造研究所}

高橋さんは、今回の講師陣の中で現役学生に最も近い年代である。学 生にとってより身近に感じられるように、ご自身の学部時代を振り返 りながら興味と進路の変遷を明かしてくれました。様々な設計課題を 通して「形態操作」に興味を持ちつつ、「その形態を実体化させる」 のに不可欠な構造をどの様に見据えていくのかが課題になっていった という。イギリスのUniversity of East Londonへと留学し、コンピュー ターを使ったアルゴリズムやパラメーターによる形態生成を研究。自 然界にある物体がどの様にカタチを成しながら構造様式を獲得してい くのかを解析。例えば樹木の成長過程をアルゴリズムプログラムに置 き換え、そのプログラムを土台にしながら用途を持った建築へ転換さ せていく試行などを行ったという。仕事においても自身のテーマであ る「カタチと構造」を行き来されてきているそうだ。北京と東京に拠 点を持つ設計事務所UAA東京では意匠、積算事務所:SK企画では部 材とコストの関わり興味を持ち、現在は「建築構造研究所」に勤務さ れ、構造設計に主軸を置かれている。台風被害が多い東南アジアで耐 風性能の高い温室の設計等、デジタルによる解析を形態生成と構造の 両面から設計されている様をご紹介頂いた。今後の高橋さんの活動が どのように展開されていくか興味が尽きないが、自分なりのテーマを 持ち続け、実社会の活動においても探求を進めていく様は、学生に とって何よりも大事なメッセージになったと思います。

記:桑原茂)

●3時限「建築からの学び」

十河 彰氏 (H16卒) SOGO建築設計

学生時代の活動を振り返りながら現在までの系譜をご紹介頂く。いかに 努力されたのかを氏は語られなかったが、フルブライト奨学金を得るな ど様々な障壁を乗り越えてこられた様が垣間見える迫力のある授業と なった。UCLA大学院での授業内容の紹介では、ソフトやデジタル加工 機を使いこなす短期間の課題と、都市開発を提案する長期的な課題によ る密度の濃い授業など、日本の学習環境との違いを教えて頂いた。都市 が構成されてきた事例を下敷きにしながら、職住エリアの分配・交通機 関・地形・日照条件などの条件をコンピューターに代入してシミュレー ションし、新しい建築形態を模索する。日本に居ると、アメリカの建築 教育のとかく自由で彫刻的な形態ばかりが注目され議論が深まることが 少ないが、理論構築による試行的な展開こそが大事にされていることが 良く分かる。次に帰国後の新居事務所での仕事や現在取り組みなどを、 デジタル環境を如何に活用しながら如何に質の高い建築へと昇華させて いるのかなどをお話頂く。デジタルフィールドの新たな活用法は加速度 的に広がっているとともに、建築の在り方を検証する方法が多角化し、 初期デザイン段階から「何を作ろうとしているのか?」と論拠を厳しく 問われる社会になりつつある。そうした意味において、実はPCに頼り切 らない姿勢も大事と締めくくられた。(記:桑原茂)

●4時限「ツール:使う側、使われる側の分岐点」

討論会

AIが話題になることが増えたこともあり、「使う」と「使われる」の分岐点を最後の討論のお題とする。将来仕事をコンピューターに奪われかねない危機感を大げさに煽りつつ、如何に道具を使いこなしていけるかが重要であることを本題として議論して頂いた。私自身の経験

だが、PCに向かっていると「仕事をした」と錯覚を覚える。作業効率は向上した一方で、考察を深めていく時間にはなっていない。このソフトは〇〇用に開発されたと聞くと、無意識に〇〇以外の使い途を閉ざしてしまうのだ。ここに大きな危険があるように思えてならない。BIMは粘土細工のような自由曲面の表現が得意ではないので、その時点で深い考察なしに選択肢から外し、ソフトで作りやすい建築ばかりを考えるようになってしまうだろう。

十河さん:BIMソフトは実施向きなので、学生はあまり頼り切らない方が良い。手で描く、作るが基本。デジタルツールの使い方をしっかりと意識することが必要。

高橋さん:学生は多くのソフトがフリーで使えるので、先ずは試して みるのも一手。流体解析など使ってみると、コンセプトを裏付けなが ら深めていけるだろう。

両氏:ビジュアルプログラミングソフトならばコンセプトを置き換えていける。なぜ使うのか、どう使いたいのか、段階によって検証方法を織り交ぜていく意識を持って欲しい。

(記:桑原茂)

8月7日(月)

● 1 時限「大学教員の仕事」

長澤康弘氏 (HOSP) 近畿大学 准教授

長澤康弘先生は、当大学建築学科および当大学大学院工学研究科建築 学専攻(学部・修士ともに近藤研究室)を卒業後、東急建設株式会社に 勤務された後、母校の建築学科に技術職員として着任され、後輩の教育・研究活動を支えながら博士(工学)の学位を取得された。その後、 鹿児島大学工学部・助教を経て、現在は近畿大学建築学部・准教授と して、教育・研究活動を行っている。

講義はまず、関東にはなじみの薄い近畿大学について、新聞広告を中心とした紹介が行われ、その後、建設業界の構造、建物の建築に関わる工程などについて、示された。

講義の中心となる「大学教員の仕事」については、学生、教員、民間企業、他大学の教員、公共団体(官庁)、地域社会など、社会全体と深くかかわる仕事であると述べられた。そのなかで大学教員となった経緯について触れられ、恩師・近藤靖史先生の存在が大きかったと語られた。特に研究の魅力について学び、答えのない問題に答えを見出す作業の中で、どのように答えを出すか、諸問題に対する探究心が大事であることを学んだと述べられた。

学生に対しては、身近にある問題・課題や現象に対する探究心の大切さ、論理的に答えを見出す方法とその過程、プロフェッショナルな姿勢・心構えが大切であるとのメッセージを送り、長澤先生の講義は終了となった。(記:小笠原岳)

●2時限「建築設備に携わり20年」

大槻健吾氏 (HOSP) 新菱冷熱工業

大槻健吾氏は、当大学建築学科(近藤研究室)を卒業後、新菱冷熱工業株式会社に勤務された。特別講義同日の1時間目を担当した長澤先生と同級生で、同じ研究室出身でもある大槻氏の講義は、まず自己紹介からスタートし、これまで担当した施工物件の紹介、建築業界・建築設備についての説明や課題、設備工事会社の仕事などについて述べられた。

大槻氏は在学時代、趣味である野球(体育会硬式野球部に所属し、4年次は主将・監督を兼任)とファミリーレストランでのアルバイトに明け暮れていたとのことである。新菱工業入社後は、現場における施工管理(6年半)→設備設計(3年半)を行い、現在は再び現場での施工管理を行っている。これまでに幕張メッセ、日本赤十字社北海道血液センターなどを担当し、現在は千葉駅ビルの商業施設を担当している。

講義のなかで、建築設備とは人体に例えれば、血液・リンパ管・神経・消化管など、建物を生かす(活かす)ために必要なものだとコメントされた。また建築設備業界の課題として、地球環境保全やエネルギー問題、人間の健康や快適性と品質との関連などが挙げられると述べられた。

また、現在担当している現場で実践した3D CADから作成した動画による冷却塔下の配管スペースの検証や、複雑な鉄骨建て方の順序をシミュレートし、設備機器の搬入計画立案に役立てられた工程シミュレーションなどの最新技術の紹介が行われた。

学生にとっては触れる機会の少ない現場での状況を丁寧に紹介していただき、聴講した学生には良い刺激になったと思われる。大槻様、大変ありがとうございました。今後とも、学生の就職など含めまして、よろしくお願いいたします。 (記:小笠原岳)

● 3 時限「母親目線の建築環境設備」

川口佳子_{氏(H18卒)日建設計}

川口佳子氏は、当大学建築学科(宿谷研究室)および当大学大学院環境情報学研究科環境情報学選考を卒業・修了後、建築設備の設計監理業務に特化したテーテンス事務所に入所された。9年間の勤務を経て、2017年より、株式会社日建設計に籍を移され、現在、設備設計部で勤務されている。講義のあった8月7日は「環境の日」と銘打たれ、設備系教員、設備施工会社勤務の先輩に引き続いて3人目の特別講師として登壇された。この日唯一の女性講師であり、講義内容に母親目線からの環境・設備の話となった。

講義はまず、環境設備に興味を持ったきっかけからスタートした。当初は、計算が多く、機器選定など機械を選ぶ作業が必要となる環境設備を「堅苦しい」とイメージされていたそうだが、建築のかたちにかかわる重要なものであると意識が変わったと述べられた。その経緯として、学生時代に地学(一般教養の一講義であるが、履修率は80%)の講義の一環として実施されたフィジー自然体験実習での経験を語られた。フィジーでは、上下水などのインフラが整っていないにもかかわらず、素敵な笑顔で日々を送る現地の方々が印象的だった話や、日中に建物ではなく木陰で休んでいる現地の人の行動に疑問を持ったことなどが紹介された。

講義後半は、母親となってから担当した保育園・幼稚園などの紹介がなされた。また、組織設計事務所とアトリエ系事務所の特徴についても言及された。

最後に、これまで経験した10年をベースに、今後10年の見通しなどが語られた。母親らしい、女性目線での語りかけに対し、同姓の学生が食い入るように講義を聴講していた姿が印象的だった。

今後も母親として、設備設計者として、この二つの大きな仕事の両立、大変でしょうが頑張ってください。ますますのご活躍を期待しております。川口様、ありがとうございました。 (記:小笠原岳)

●4時限「20年後の環境・設備」

討論会

「環境の日」の討論会は、当日講義をされた長澤先生(近畿大学・近藤研究室)、大槻氏(新菱冷熱・近藤研究室)、川口氏(日建設計・宿谷研究室)の3名の方々に、司会・小笠原(明星大学・近藤研究室)から質問をする形で進行した。

まず最初に、それぞれの出身研究室の指導教員に対する印象や思い出などに関する質問からスタートした。長澤先生は、近藤先生のご自宅に招かれて焼肉をごちそうになったことが思い出深いと語られた。また、近藤先生が1年間アメリカ出張となった際、長澤先生は技術員として当大学に勤務されていたが、当時修士2年生であった司会者の小笠原とともに近藤先生宅を訪問したことも良い思い出であると語られた。川口氏の指導教員である宿谷先生は、学生の考えを決して否定せずに、適切な方向へ導いてくれる教員であったと感慨深く語られた。かに、学生時代の生活について侵ったところ、大概にはアルバイトと

次に、学生時代の生活について伺ったところ、大槻氏はアルバイトと 部活中心の生活であったと発言された。実は大槻氏は体育会硬式野球 部の主将であり、野球部に監督がいなかったため、学生監督という立 場でもご活躍された。

最後に、受講生に対するメッセージを頂いた。長澤先生からは自身の経験から、目の前のことだけを追い求めるのではなく、中期・長期的な目標や展望をしっかりと持ってほしいと述べられた。川口氏からは結婚後の自身の経験から、母親に対する感謝と母として生きる喜び、そして大変さを強調されていた。

討論会のテーマは「環境・設備の未来」であったが、講師陣の熱い 語りもあり、将来展望へと話が移る前に終了時間となってしまった。 司会の不手際を詫びるとともに、討論会に参加いただいた3氏に感謝の 気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(記:小笠原岳)

新井章邦氏(563年)森ビル

新井氏は1988年森ビル入社後「プロジェクト設計」「都市開発」担当として多くの実績を重ね、2012年には編集責任者として「新建築7月別冊"森ビル 建築から都市へ"」を通じて「森稔社長の都市づくりへの夢と哲学、そして実現への強い意志の表現」の中核を担った。当講座ではこの特集号の資料を基に2年生にも「ディベロッパーの実態」を分かり易く、1955年に西新橋の小さなビルの建設・運営から出発し「六本木ヒルズ」に代表される大規模複合都市再開発を実現したディベロッパーの不断の挑戦と成長の軌跡として6つのステージに要約し紹介された。

- 第1章 1955-1970 ナンバービルの時代 合理的なオフィスビルの追求 ▶高効率オフィスによる事業性が今日の森ビルの経営基盤を支 えてくれた
- 第2章 1970-1986 アークヒルズの時代 複合化への模索
 - ▶アークヒルズに森ビル開発の特徴が表れている/活動の拠点を港区とする森ビルにとって、平坦な敷地の確保は困難であり、自然と傾斜地型開発となる/これは各レベルからの多様なアプローチが取れる魅力となっている。
- 第3章 1986-2003 六本木ヒルズの時代 加速する複合化: グローバル化・IT化・スピード化の時代への対応 芸術・文化 へのこだわり
- 第4章 1993-2008 上海環球金融中心の時代 地上100階を超える 第5章 2003-現代 「虎の門ヒルズ」及び周辺街区の再開発に伴う 「新駅誘致」の実現。

東京のグランドデザインを見据える

第6章 2030年へのビジョン 東京が世界一の都市であり続けるために 森ビルのまちづくり構想の歩み/アーバンニューディール政策 敷地から街区へ/Vertical Garden City

街区から都市へ/森稔・伊藤滋によるグランドデザイン私案こうして東京の発展と共に成長し、21世紀の都市像を描く森ビルの全貌に、建築的・都市的視点から触れる機会を得ることができた。森ビルは今後も「赤坂・六本木・虎ノ門・新橋地域のグランドデザイン」を中核として、開発事業を通じて「文化都心」の創造にこだわって行きたいと主張。

新井氏の2030年に向けた活躍を大いに期待したい。

(記:斉藤博)

● 2 時限「東急電鉄のまちづくり」

打矢潤市_{氏 (H12卒) 東急電鉄}

打矢氏は2002年大学院修士課程を修了、東京急行電鉄に入社。多くの 開発事業プロジェクトを経験し、現在は「都市創造本部にて東急沿線 の開発」を担っている。

当講座では「東急電鉄のDNA」がどのように形成されたかを創業時に 遡って経時的に説明された。「街づくりのモデル」として"多摩田園 都市""田園調布"開発の歴史的説明がなされた。特に多摩田園都市で は沿線において東急電鉄主導で58団体と共に多くの「区画整理事業」 を推進してきた。「たまプラーザ」を事例に"まちづくりと鉄道・駅" の関係と都市戦略について説明があった。また現在進行中の「渋谷開 発」の全体像についても詳細な解説がなされた。この中で「東急電鉄 のディベロパーとしての特徴」を1st「将来の鉄道敷設を前提に、先 ず"まちづくり/住宅団地の開発"が為され」人口が定着した時点で、2 nd「鉄道駅が整備」され、これにより周辺人口が増大、3rd「人口増 による鉄道輸送人員が増大」、鉄道利用者の増大に合せ、4th「駅前 に大型駅ビル等商業施設を整備」し新たな魅力を導入、この効果によ り更に周辺人口が増大するという『鉄道・交通』『不動産』『生活・ 商業』という《コア事業連携による相乗効果》即ち"上記サイクルを循 環させることで付加価値を永続的に創出する構造"が「東急電鉄による ディベロップメント」の基本であるという。打矢氏が担当し最近開業 した「渋谷CAST」について開発コンセプトの説明があった。「渋 谷CAST」では新領域のクリエイティブ・ビジネス開拓を行う場と なっていくことを目標に、クリエイティブ系事業のプロデューサーや ディレクター等「仕事を創る人・統括する人」をテナントのメイン ターゲットとしている。この中で特にこだわったという「クリエイ ターが集い交流、発信、育成するスペースの提案」「コラボレーショ ンを誘発する空間デザイン」は多様な分野の能力を結集して構想され たもので、これは打矢氏が目指す「循環型街づくりによる事業開発」 への視点を明快に示すモデルといえる。

この講義全体を通じて「東急電鉄の都市開発のDNA(泳い伝統と共に育まれてきた価値観)」を学生たちに分かり易く示してくれたものと言えよう。(記:斉藤博)

● 3 時限「横浜の郊外住宅地、住民・企業・大学・行政の協同によるまちづくり」

馬立歳久氏(H04年)横浜市

馬立歳久氏は1992年に本学を卒業後、1996年東京芸大の大学院修士 課程建築専功を修了と前後して1995年より村上徹建築設計事務所に勤 務。2001年に独立してマダチ建築アトリエを主宰。村上事務所時代は 庵治町役場(新建築1996年7月号)をはじめ数々の作品を担当され、 独立後は下田眼科クリニックその他、透明感のある作品を新建築や建 築文化に発表。また2006年より東京工芸大学建築学科で講師を勤め る一方、NTTドコモの委託研究「モバイル社会のための住宅」など、 ユニークな活動を展開。建築家・デザイナー・教師・研究者として活 躍され、2010年に横浜市役所に入庁。それまでに培った経験と知識 を行政のまちづくりの仕事に傾けることになる。講義は村上事務所時 代の思い出や独立時代の作品紹介からスタートして、この日のテーマ である「まちづくり」の視点から、横浜市が推進する事業を(1)持 続可能な住宅地モデルプロジェクト、(2) 大規模団地再生モデル構 築プロジェクトという二つのタイプに分けて、各々の具体的な事例を 紹介・解説してくれた。20世紀型の都市計画が『つくる』まちづくり であったのに対して、21世紀型のまちづくりは既成市街地のリノベー ションが大きなテーマであり、そこでは行政、民間企業、地域コミュ ニティの三者が協働して『育てる』まちづくりが基本になると馬立氏 は指摘する。(1)では鉄道沿線の駅周辺地区を4つ、(2)では旭区 内の4つの大規模団地を取り上げ、その各々のケースについて、かか える問題点の分析と横浜市の再生事業を説明。横浜市のモデル的なプ ロジェクトによる現実に即した様々なアプローチは、今後の「再生の まちづくり」のプロトモデルとなるであろう。かつて横浜市では民間 から入庁した田村明氏が「企画調整局」で港北ニュータウン、金沢 シーサイドタウン、都心プロムナード、大通り公園、等々のプロジェ クトを推進させ、我々の世代に都市計画とは何かを教え示してくれ た。これら「都市のレガシー」の多くが今後「再生」の必要性に迫ら れるとき、馬立氏の言う『育てる』まちづくりの処方箋が有効となる に違いない。 (記:小林捨象)

●4時限『「都市・まちづくり」のプロデュースに求められる "領域を超えた職能"について』

寸論会

「まちづくりの日」3講師の講義終了後「3講師+司会:如学会副会 長/斉藤博(S44卒)」による「都市・まちづくりのプロデュースに求め られる"領域を超えた職能"について」と題した討論会・質疑応答の場 を設けた。斉藤博(S44田辺研卒)は日本設計入社後"建築設計部"在任 中、プロジェクトメイク機能の必要性を説き"開発計画部"を開設、日 本設計大規模事業(浜松アクトシティー、アクロス福岡等)の総合プロ デュースを担ってきた。こうした経験から①「卒業時の入社目標が現 在のポジションで実現できているか」②「建築学科出身者がディベ ロップメントのプロデュースを担うために自らの職域領域を広げる努 力を如何に行ってきたか」について3講師に答えてもらった。《新井 氏》からは最初に現在森ビルに23名のOB・OGがいるがここ数年入社 が無い。是非入社チャレンジして欲しいとの期待の言葉があった。森 ビルは入社後数年は複数部署を経験し本人の適性と希望部署を自らが 選別するシステムがある。氏は「建築設計」にこだわり軸足としつつ 「大規模開発のプロデュース」を実践、多くの領域のプロフェッショ ナルとの共同事業を体験してきた。この中で「複合的な都市開発」を 通じた「まち魅力の創出」の意義を体感してきた。特に虎ノ門地区で 自ら「鉄道駅の新設可能性」を描いていたところ、虎ノ門ヒルズが引 き金となり周辺街区に開発が拡大した結果「駅新設」の環境が備わっ てくるという「都市開発に関わることで得られる魅力」を実感してい る。《打矢氏》からは「東急電鉄という企業のDNA」と自分の目指す ところとが一致しており、ここしかないとの思いで入社した。鉄道事 業と都市開発事業とが相互に成長魅力を増幅する仕組みを描くことの 楽しさを強調された。特に「渋谷CAST」において他の分野のクリエー ター達との交流も視野を広げる糧となった。《馬立氏》からは、設計 専業のデザイン事務所経営を経て「横浜市の都市デザイン」を目指し 転職した。個人の住宅設計は「住まう数名」に如何に最高の環境を創 りだすかであったが、都市デザインに関わることで「より多くの人々 にとっての魅力ある街づくり」を描けることに魅力を感じている。 現在、市の郊外プロジェクトに関わり「持続可能な住宅地モデルプ ロジェクト」実現を目指し活動しているが、ここで多くの企業・鉄 道会社・コンサルタント等との関係が生まれ、自身の職域も拡大し

その後、会場の学生からの質問に3講師個々に回答頂き盛会のもとに「まちづくりの日」特別講座を終えることができた。(記:斉藤博)

8月9日(水)

●1時限「建築施工を通じて伝えたいこと」

清水毅氏 (S62卒) 清水建設

講師は建築生産の授業に興味を持ち、江口研究室に所属、S62卒、H1年に建築学専攻修了後に清水建設に入社、北海道支店を経て、東京支店で現在に至る。

講義は建設業におけるゼネコンの立場、業務を説明。ビルを建てたい発注者から仕事を請け負い、建築工事(設計施工)に際して企画提案、設計、施工、竣工・引渡しなどの流れを詳しく解説した。

施工の仕事において、工事計画の立案、資材の発注、専門工事会社の手配、工事全体の管理などや、図面から実際の建物をつくり上げ、また人をマネジメントする業務などについて説明した。施工現場の中では全体工程表、現場定例会での3Dによる施主説明の状況、BIMによる建築、設備、電気工事の整合検討や、4Dによる全体仮設計画、鉄骨建方やタワークレーン組立解体シミュレーションなど分かりやすく解説した。そして施工管理は物理的にも、金銭的にもスケールが大きく、お客様、設計事務所、職人さんなど様々な人々と関わりながら施工管理した建物が、自分の仕事の成果として次世代に残ると学生に施工について熱く語った。

清水建設の最近施工実績は新築工事の歌舞伎座(2013)、東急プラザ銀座(2016)を、改修工事の浅草寺本堂(2010)、出雲大社(2013)、正倉院(2014)を、また昨年世界文化遺産に登録された国立西洋美術館の免震化工事(1998)などを紹介し、「つくることと守ること」の魅力を述べた。

講師の自己紹介では、学生生活の中で江口先生との出会いから、丁寧で熱心な指導の下で工程計画の研究を行ったことを語り、清水建設への入社は、机上の工程計画から実際の建築生産の標準化にどう取り組むかに興味がそそられたこと、また中学生の頃に見た壮大な東大寺大仏殿の大改修が清水建設だったことなどが志望動機だと語った。

入社5年後に北海道支店に転勤して、小規模の菓子店(店舗、工場、住居)新築で初の現場責任者を経験、その後北海道支店の全域の現場を管理する統括工事長を歴任、又受難な出来事として解体現場や大型病院での事故後の立て直し等を経験した。そして20年の北海道勤務の後に東京支店に転勤し、豊洲新市場の工事に参加した。現在は東京支店企画部長と施工図センター長兼務しているが、入社以来の体験談や講師が感じたコメントを合わせて解説、講師の建築工事に向かう強い信念・姿勢を感じさせられた。

現在の建設業の課題では、建設業がその役割を持続的に担うために 建築技能労働者の減少などを上回る「生産性の向上」や、将来の担い 手を確保するために「働き方改革」に取り組む必要があり、長時間労 働の是正や休日取得推進し、給料が良くて、将来に希望が持てる「新 しい3 K」の魅力ある建設業としたいと結ぶ。

最後に学生生活の皆さんにお伝えしたい事(期待する事)として、

- ・今、自分が何をすべきか、何がしたいかを考える。
- ・いろいろなことに興味をもつ、試してみる。
- ・自分の人生の目標とスケジュールをたてる ・自ら発信する ・感謝 の気持ちを持つ

皆さんには多くの可能性がある、頑張って欲しい、もちろん建設業の担い手となってくれる事を期待していると結び、次世代を担う学生にエールを送った。(記:青柳浩男)

●2時限「渋谷が変わる!渋谷を変える!―施工の魅力と醍醐味」

田村健二氏(S57年)東急建設

田村氏は、1982年本学卒業後、東急建設に入社され、それ以降現在までの35年間、現場一筋の技術屋さんです。

講義は、ご自身が携われた工事の紹介から始まった。平成初めの羽田 空港格納庫新築から、渋谷セルリアンタワー新築、東急文化会館解 体、白金台高級マンション新築、副都心線渋谷駅新築、渋谷ヒカリエ 新築、東急百貨店東横店解体まで。新築工事から解体工事、格納庫・ 駅・住宅から複合商業ビルまでの幅広い施工体験を工事・竣工写真を 交えて説明をされた。

次に渋谷ヒカリエ新築工事において工期短縮の為に採用した、逆打工法、リフトアップ工法、上下階の同時順打二段施工を建物の図を示しながらわかりやすく詳細に説明をされた。

続けて、東急百貨店東横店東・中央館解体工事の説明となった。この 工事は、田村氏曰く「日本一難しい解体工事」である。駅の業務、鉄 道の運行、隣接百貨店の営業を継続しながら解体工事をしなければな らない工事であり、その要点をやはり施工方法を中心に解説された。 最後に、現在から将来の渋谷再開発の説明をされた。渋谷再開発は東 京オリンピック後も続き、再開発後の渋谷は、駅・百貨店、街区共に現在とは大きく変わった街になるそうです。

まとめとして、田村氏は学生に向けて「本日の講義で『施工の魅力と 醍醐味』を少しでも感じ取っていただければ幸いです。」と言う言葉で 閉められた。(記:露木博視)

●3時限「インテグレーション」

村上博昭 (HOSP) 日建設語

一般的に大学ではPC建築に関する授業講座が少なく、魅力的な構造 デザイン手法を学生のうちに学んでおけないのは、計画系を目指す学 生も含めて残念であると思う。その意味で実社会のOBによる特別講義 が、これから勉強を重ねて知見を積む状況にある2年生に対して、わず かな時間の中での構造設計を主とする作品説明であるが、PC建築に 興味を持つきっかけになればいいと期待した次第です。内容は既製の プレコンスラブやST版と呼ばれるプレテンション部材を建築、設備 設計との整合を考慮した特殊形状としてまとめている作品の紹介であ る。その特殊性を盛り込んだことにより新しい建築空間と構造デザイ ンの特殊解を実現できたと思う。そのことによりPCに異種の要素を 持ち込み多様性を展開、空間演出したという点では協同した建築家、 設備家の前向きな姿勢を含めて建築界における意義は小さくないとお もわれます。今後の更なる充実と発展に期待したいと思う。授業とし てはPCのRCと異なる構造原理や優秀性及び歴史を丁寧に説明する と更に良かったと思いました。また予算があればパンフを手渡せたら 今後の勉強にもっと役立つと思いました。最後に講義時間が超過し学 生との貴重な質疑応答時間が消えたのは残念です。今後は質疑応答を しっかりやり学生の創造的思考能力を引き出せたらより素晴らしい授 業になるだろうと感じました。そしてPCは建築、構造を含めて非常 に魅力的で重要な部門であるにもかかわらず、技術レベルも高く教え る学校が少ないので、出来れば毎年何等かの授業提案がなされると学 生にとっての意義は少なくないと思います。また改めていつか再授業 を行ってほしいと思います。 (記:相原俊弘)

●4時限「建築における積分と微分(統合と分化)のチカラ」

討論会

「施工の日」の討論会は、施工がご専門の1時限目と2時限目の清水 毅氏(清水建設)、田村健二(東急建設)、及び構造がご専門の村上 博昭氏(日建設計)への質疑応答と、学生の意見を交えての対談を行 なった。

「建築における積分と微分(結合と分化)のチカラ」と題したのは、「施工」における多分野に亘る異なった職種の作業内容の分析と統合、「構造」が「骨格」の強度や靭性を論じるだけでなく、村上氏のようにファサードエンジニアリングやサフェイスエンバイロメントなど、幅広く建築の性能に関わってきていることで、「設計」や「施工」と異なる意味での分析と統合が必要となってきていることに注目してのことである。

特に建築は寿命の異なる材質・部品によってインテグレード(統合 積分)されているため、一概に「何年もつか?」との素人の質問には 一言では答えられないはずである。構造は60年は保証できるといっ ても、雨漏りの原因となるシーリング材とかコーキング材などは施工 の良し悪しにかかわらず、物性的には数年でダメになるものもある。 従って、定期的にメンテナンスが必須で、それを行なうことが前提で の「建築の寿命」である。

施工と構造に関して、この件の各自の意見もお聞きした。もうひとつは施工や構造に関する「センス」の話と質問。あるゼネコン大手の設備設計部の執行役員に設備の学生の就職採用の話をしたときに「その学生はセンスいい?設備はセンスの良い子が必要」とのことだった。

「センス」とは意匠の分野の方々のみではない。構造も果たして「センスが良くないと」とはよく聞く話だ。構造も計算以前に力の流れ、バランスなどに直観力が必要だ。ことほど左様に、施工にもと質問に及ぶと、やはり同様の声が上がった。もちろんこの「センス」とは、もって生まれたものだけでなく、努力して学んで磨かれていくものだ。企業はパソコンで描かれた図面の力よりもこうしたバランス良いセンスをもつ「人間力」のある学生を望んでいることをあらためて認識した。(記:山岡嘉彌)

0

21







広島ビジネスタワ

(H04 卒)

MOTOKI Sizuka

1992 年 武蔵工業大学建築学科卒業(広瀬研究室) 1992年 大成建設入社設計本部設計第七部配属 設計本部 環境計画部

1999 年 都市開発本部プロジェクト開発部・開発

事業部を経て 2012年-ソリューション営業本部 プロポーザル・ ソリューション部

設計時代:入社して設計第七部というオフィス ビルを専門に設計する部署に配属になりました。 バブルは崩壊していましたが、建設業は波が遅れ てくるということで、まだオフィス部隊は大変忙 しかったです。オフィスビルの基本設計から確認 申請業務、実施設計、竣工まで通して見ることが できました。

その後 2000 年の直前に環境計画部に異動になり ました。環境計画部の仕事は設計の更に川上です。 大学の設計スペック、設計条件を整理する部署に 異動しました。部署ごと横浜ランドマークタワー に移動しました。実家が横浜から遠かったため、 通勤は大変でした。しばらくして、「開発部で建築 士の女性が退社するので人を募集している」とい う話があり本社に戻りました。

開発時代:プロジェクト開発部に異動しました。 ここでは有効活用提案や事業コンペの提案を行い ました。同じ会社とはいえ、設計本部とはまるで 感覚が違います。転職したような驚きの日々が暫 く続きました。建築学科を卒業したので設計をずっ とやっていくものと思っていました。最初はボ リュームチェックや簡単なゾーニング等、設計業 務の延長のような仕事を行いました。しかし、開 発の本質である「事業を組み立てる」という仕事 にも興味を持ち始め、事業収支計算もはじめまし た。そしてどんなに良い設計プランが出来ても「先 立つもの」がないと「絵に描いた餅」であること を痛感させられました。

その後開発事業部に異動しました。事業者として、 事業者定例、設計定例、リーシング会議に出席し 事業を作っていきました。開発事業部の案件は出 口が決まっており、当社のマスターリース床があ るものもありました。 リーシングをしてテナント を埋めないと収入がないのに賃料を払い続けるこ とになるため、リーシングにも力を入れました。

プロポーザル・ソリューション部:プロジェク ト開発部に近い業務ですが、設計出身者と、都市 開発出身者が混在している新しい部署です。前の 2つの部署に比べ、歴史が浅いため、手探り的な 部分もありますが、新しい可能性や柔軟性を感じ る部署です。有効活用提案や公有地案件を数年前 から事前情報入手し、川上から仕込み、設計施工 に持っていく仕事をしています。新しい世の中の 流れを読みながら提案に活かしていきます。

大学で学んだ設計の仕事とは違いますが、不動産 のチラシを見るのが大好きだった子供時代を考え ると、不動産開発して建物建設を実現させるとい う仕事は、ひょっとすると「子供のころから好き だったこと」の延長なのかもしれないと思う今日 この頃です。 (大成建設)

私は2009年に山下設計に入社しました。入社後、 近年、官公庁の物件では税金を使って事業を行う 社で働いております。

本社では 1,000㎡の高校の体育館の設計や学校の ライアントが事業にかける思いを対話を重ねて引 です。建物の発注者には建築に携わったことのあ かなければいけません。そのときにパースや模型、 部なのだな、とつくづく感じさせられています。

また、設計段階から工事の時まで、プロジェク トを取巻く環境は常に変化していきますが、その 計コンセプトをよく練ることが重要だと思います。たいと思います。

本社で設計部とコンペ・プロポーザルを行う部署 ため、よりシビアな目にさらされ、「このプロジェ にいましたが、昨年の8月から大阪にある関西支 クトに本当に必要か」ということを常に問わなく てはいけないことを特に感じます。プロジェクト を推進するためには「何をやりたいか」「このプロ キャンパス計画、集合住宅や庁舎、銀行の設計、 ジェクトにどうして必要か」「それを実現するには 病院のプロポーザルと様々な用途の建物に携わっ どうしたらいいか」ということを設計から建物が てきました。プロジェクトの大小に関わらず、ク 建つまで社外・社内のプロジェクトの関係者で常 に共有していくてとになるため、やはり設計コン 出し、ひとつの形にするのが設計者の大きな役割 セプトを明確にしておくことが重要となってきま す。いろいろな用途の建物の設計に携わってきま る方もいれば、そうでない方もいらっしゃるので、 したが、お客様と対話し、設計コンセプトを明確 どのような提案をすれば満足いただけるか、手をにし、設計を行うという手順はどんな建物でも共 替え、品を替え、納得のいくまで対話を重ねてい 通してきます。ただ、それぞれの敷地や建物、関わっ ている人、バックグラウンドが違うためどんな建 図面、というのはコミュニケーションツールの一 物でも同じものはなく、固有のストーリーが生ま れるのが建築設計の飽きることがないところだな、 と思います。

これからも、様々な思いをくみ取り、社会に ため、企画段階で「何を実現させるか」という設 フィードバックしていけるような提案をしていき (山下設計)

■ file-81 建築設計というしごと



KUDOU Maki

2007年 武蔵工業大学建築学科卒業 (手塚研究室) 2009 年 首都大学東京大学院都市環境科学研究科 建築学域修了

2009年 山下設計 入社

■ file-82 三方良し目指して、築古物件の経年優化プロジェクト

MORIKAWA Min

2011年 東京都市大学建築学科卒業 (天野研究室) 2013年 東京都市大学大学院修了 (天野研究室) 2013年 東京急行電鉄(以下「東急電鉄」)入社

東急カード出向 東急東構線 構浜駅 配属

2014年 東急電鉄 都市創造本部 運営事業部 営業一部

受託PM課 配属





私は、REIT スキームで取得した不動産の管理運 営(PM)業務に携わっています。REIT 物件は、運 用益を投資家へ還元する為、PM業務の命題は、 物件 NOI (営業純利益)最大化です。お客様は、オー ナーとテナントの両方で、利害関係が相反する両 者なだけに、はまらないパズルのピースをはまる まで、模索、提案、折衝、試行錯誤の毎日です。 その分、オーナーを満足させ、テナントにも喜ば れた時の達成感は、格別です。

配属3年目に携わった虎ノ門にある築30年のビ ルの屋上活用プロジェクト(PJ)が、私にとって、 まさにこの達成感を得た仕事の1つでした。屋上 空きスペースに憩いの場を設けるという前任の構 想からP J は始まります。REIT 物件は、設備投資 の価値寄与を数値化しなければ予算確保できない 為、まず、2年間かけて賃料増額改定を進めました。 虎ノ門界隈の不動産市況好調も手伝い、賃貸収入 対従前1割増まで達成し、予算取得しました。デ

よ発注だ!と思った矢先、突然オーナーから、P J中止と言われました。屋上活用の前例がないこ とから、オーナーはリスクヘッジで行き詰まって おり、仕事合間に屋上で憩う豊かな時間の提供や、 会社の屋上で懇親会を催せるビルの付加価値に共 感できなかったことがPJ推進の支障になってい ました。

前任の想いやサービス向上を期待するテナント の為にも、このPJは妄想では終わせられないと、 熱が入りました。オーナー側の担当者を味方につ け、他社屋上事例を調査し、ショールームに通い 詰める等、ダメ項目を1つずつ地道に潰しました。 屋上貸切、アルコールNGといった運営上のダメ 事項を沢山言いつけられたままでしたが、2016年 10月より屋上憩いスペースの供用が始まりました。 そして、9ヶ月経った今年の七夕に、屋上では、 紅白幕を立て、お酒を嗜み、スイカ割りを楽しむ

ザインコンペを経て、私も主担当になり、いよい テナントの姿がありました。日頃屋上を気に入っ て頂いているテナントが社内納会を催していたので す。また、360 坪程あった空室区画も、屋上の評価 が高く、従前より短いダウンタイムで成約できまし た。運営上の課題は数多くあるものの、ようやくオー ナーにも、屋上活用の価値に共感してもらえました。

> 都心では最先端スペックビルが 2020 年までに多 く竣工します。また、多くの企業で働き方改革が 唄われ、弊社でも NEWWORK 事業を展開する等、 多様化する働き方のサポートツール、制度を増や しています。画一的なオフィス環境も、働き方に 併せて進化必須の今だからこそ、築古物件の担当 者としては、経年劣化の延命施策を提案するだけ でなく、テナント愛着度向上戦略等、経年優化の PM力を切磋琢磨していきたいと思います。

> > (東京急行雷鉄)

私は藤沢市役所の建築指導課に所属しています。 入庁してから今年で5年目になり、課の中ではそ れなりに古株になってきたようです。

ところで皆様、藤沢市をご存じでしょうか?江の 島や湘南というと「ああ!」と合点なさる方も少 なくないかもしれません。そんな藤沢市ですが、 偶然にもこの文章を書いている最中、TV番組「ア ド街ック天国」で私が育った街「鵠沼海岸」が紹 介されていたり、主婦の住みたい市 No.1 に選ばれ る等、その注目度は高まっているように感じます。 さらに、江の島は東京オリンピックのセーリング 競技会場にも選ばれています。 私はそんな海に 面した街で育ち、仕事をしています。

さて、建築指導課は建築業界で働いている方な ら一度は何かしらの調査や申請で訪れたことがあ るかと思います。どのような仕事をしているかは 皆様ご存じかと思いつつ、今まで担当してきた業 務について私なりにご紹介したいと思います。 建築指導課は建築基準法に基づいた業務が主業務

です。 1年目は、許認可、違反、道路、定期報告等を行 う担当でした。担当領域が幅広く、飛び交ってい る言葉が何だかわからないまま、周りの先輩のご 指導を受けつつ窓口対応・電話対応を通じて、多 岐にわたる業務を覚えることができました。

2~4年目は建築基準法上の道路に関する内容を 担当していました。道路の調査、指定・廃止、43 条ただし書許可等が中心でした。さらに通常業務 とは別に、「市全体の道路調査を行う」という大き なプロジェクトに担当として関われました。

これまで窓口で紙の地図でしか確認できなかった 道路種別を、窓口端末や市 HP で確認できるように して利便性を向上させることを目的に、まず市全 体の道路調査を行ったのです。

私は1年目の終わり頃に道路調査の準備の手伝い たらと思います。

も少ししていた程度だったのですが、いつのまに か中心になって、委託会社や担当に指示をするよ うになっていました。データの管理はすべて私が 行っており、あまりのデータ量に嫌気がさす時も ありましたが、調査がすべて終わった時は達成感 がありました。また、最終的な目的である前述の 利便性向上は今年度からスタートでき、相談者の メリット向上はもとより、窓口業務の効率化も大 幅に向上することができました。 ただし、今年 度から担当が変わったことにより、頑張った成果 を実感として味わうことはできず、ちょっと残念 に思っています。

今年度から担当替えがあり、確認申請の審査等 を主に担当しています。確認申請の審査といって も、近年は9割以上の申請が民間の確認審査機関 に出されているので、確認申請に関する相談の方 が多い状況です。そんな中、質問される内容の大 半は建築基準法だけでは読み取れないものです。 行政によって判断が違いますし、法の主旨をわかっ た上で判断をしていかないといけません。とにか く色々な文献を見て、経験ある先輩や主事に相談 して、やっと答えが出るような感じです。まだま だ勉強中ですが、法文を読んだり、参考文献を読 むのは苦ではないので、もっと法律を読み解ける ようになりたいと思っています。

このように皆さんが来る窓口の内側ではこんな 業務をしています。その他にも公務員ならではの 仕事として、災害対応や選挙時の投票所要員があ ります。大雨の夜に避難所を開設したり、選挙の 日は大抵蒸し暑いか凍えそうに寒い気候で一日中 投票者を待ったりなども仕事の一つです。藤沢市 に限らず、皆さんが住んでいる街でも同じように 法律にあった安全な建物のために働いている人が いることを頭の片隅にでも覚えておいていただけ (藤沢市役所)



ふじキュン(藤沢市公式マスコットキャラクター)

中村苑子

(H23 卒)

NAKAMURA Sonoko

2011 年 東京都市大学建築学科卒業 (勝又研究室) 2013年 東京都市大学大学院修了 (勝又研究室) 2013年 藤沢市役所 入庁

窓口の内側では

福島県いわき 古滝屋ボランティアルームプロジェクト「匣屋」

如学会・青年委員会

大学生と高校生でつくる福島のまちの未来

如学会・青年委員会は委員会発足当初の2012年から企画・提案型の「復興・まちづくりボランティア」として福島県いわき市へのまちづく りサポートを続けています。青年委員会がサポートする東京都市大学の学生有志による復興サポートプロジェクトとして「古滝屋ボランティ アルームプロジェクト・匣屋」が完成しました。若い世代が地域の為に集い、議論する場所としてボランティアルームが計画されました。 それを若い世代の学生たちが作り上げていく。幾多の困難を乗り越えて様々なコラボレーターと共に完成させましたが、特に大学生と高校生 のコラボレーションは教育的側面からも有意義なものであったかと思います。

0)

に

ち

る

設計・現地組立を大学生、L字型ボックスの製作を墨田工業高校の建築学科3年生に行ってもらいました。

東京の大学生と高校生が共に福島のまちの事を思い、自分のできる事に時間と労力を割く。

「人のために自分が何をすることが出来るか」ということをプロジェクトの時間をかけて学んでくれました。

つたない取組だったかもしれませんが、これらの取り組みは福島県いわき市のみなさんにも伝わったかと思います。

この内容は共同通信を通じて福島だけではなく全国の新聞にも配信していただきました。

ここで学んだ事を次にも生かしてもらえたら幸いです。

青年委員会 栗田祥弘 (H10 卒)



隅田工業高校木工所内にて学生が施工方法の打合せ

1. はじめに

2017年初春、約2年間携わってきたプロジェクト「匣屋(は こや)」が竣工致しました。福島県いわき市・古滝屋旅館。東 日本大震災の影響を受けた町であり、震災を機に変わろうと する旅館です。震災を受けたまちの再興のために集まるボラ ンティアの方々に対して、既存部屋のリノベーションによっ て 居心地の良い宿泊空間を提供することが今回のプロジェク トの目的となります。

2. 背景

私たちがプロジェクトについて、最初にお話を頂いたのは 2015年4月のことでした。館主のいわき市復興への思いがこ のプロジェクトの始まりです。 東日本大震災以来、いわきの 町には多くの人々が復興のためのボランティアとして訪れて います。しかし、旅館にはボランティアの方々が宿泊できる 安価な部屋がなく、宴会場の一室を使用している状況でした。 いわきの町全体も被災地として、苦しい立場にいます。原発 作業員の長期滞在により、いわきへ観光で訪れた時や、部活 動等の合宿で訪れた時の宿泊場所が長く不足してしまってい ます。それは震災から約6年経った現在でもです。

このままでは、皆がいわきを敬遠してしまい、作業員が帰っ た後、地域コミュニティには何も残らないということになり かねません。そのような状況の中、いわきの町を盛り上げた い、地域の核としての旅館の姿を取り戻したいという施主の 想いから、「ボランティアの方々の宿泊場所として、また行く 行くは旅行客が来た際の安価な宿泊場所として利用できる、 ドミトリーのような宿泊スペース」をつくるプロジェクトが 始動しました。しかし、ボランティアルームというビジネス 事業として成り立ちにくいプロジェクトに銀行の融資は下り ず、限られた予算の中で作らなければならない状況でした。 そこで私たち学生が立ち上がり依頼を受けることになりまし た。それは同時に、学生としての柔軟なアイデア・若い力を 期待されての依頼でもありました。

3. デザインコンセプト

まず、プロジェクトを進めるにあたって18畳という空間を改 修することで「寝床」と「語り合える空間」をいかに創出す るかという問いに対して答えを出すことが今回の提案となり、 コンセプトとなりました。改修後ボランティアルームは、そ のプログラム上、様々な形態での利用が見込まれます。1人 での利用や複数人での貸切利用、複数グループでの利用など も含まれます。とはいえ、カプセルホテルのようにひとりひ とりのプライバシーを守り、それぞれに閉じられたスペース を設けることには最初から違和感がありました。旅行先でこ れまでの出来事やこれからの旅程を語り合うように、地域の 復興について議論し話し合えるようなフラットな空間こそが 求められているのではないかと考えたからです。共有空間を 出来るだけ多くつくり、交流を促すこと。共有空間で語り合っ た後にそれぞれの寝床に戻っていけるような空間をつくるこ と。緩やかに専有空間と共有空間を繋ぐこと。最初に思い描 いた空間はその3つを満たすことでした。

それらを実現させる空間はシンプルな答えとなりました。矩 形のボックスではなく、L字型のボックスを積み上げる形と すること。スペースの最小化を考えたそれぞれのL字型ボッ クスはひと1人が寝るために必要最小限の大きさとなります。 それらを積み木のように積み上げることで、緩やかに空間を分 けながら共有空間を立体的に形作っていきます。 壁を立てる のではなく、家具レベルの L 字型ボックスを使いながら空間 を分けていくことで、ボックスはベンチのような、目隠し壁の ような使われ方を生み出します。L字型ボックスは、複数人 での利用も想定される宿泊場所として、カプセルホテルとは 違う新しい環境を生み出せるのではないかと考えました。

人のつながりによって出来ること、協力するということ

4. 制作過程

プロジェクトを進める上で、模型や図面、パース等で検討を続 ける傍ら、施工に向けての準備も行なっていきました。家具 制作の依頼や資材調達、既存建屋の実測、図面化など、今まで 学生としてほとんど経験のない施工という過程において、様々 な方のご協力のもとプロジェクトが成功したと言えます。 ま ず、今回のプロジェクトの大きな柱であるL字型ボックスは墨 田工業高校の高校生たちに制作を依頼させて頂きました。墨 田工業高校には大きな木工場があり、授業として木加工の実 習があります。墨田工業高校の先生たちの計らいにより、そ の実習の時間にこのL字型ボックスを制作してもらうことに なりました。その時使う木材や塗料の材料代は総合資格学院 が提供してくださいました。また福島県での数々の打合せ交 通費やL字型ボックスの運搬費等は如学会青年委員会の予算 から割いて頂き協力して頂きました。また部屋の改修にあたっ ては、フローリング材をADワールドより提供して頂きました。 同じように被災した地に加工場、資材倉庫をもっていた方々 であり、今回のプロジェクトに共感頂きで協力頂けました。 実際に、木材を見学しに行くことで、質感や写真では分からな い色彩を確認できたことで、自分たちのイメージにあった部 屋を創り出せたと思っています。若い力によって今回のプロ ジェクトを成功させたいという施主の意向や、若い意欲をバッ クアップしたいと様々な形で協力してくださった組織、企業 のみなさん、またプロジェクト全体を通してアドバイスを頂 いた栗田さんのご紹介もあり、実現したコラボレーションと なります。実寸大でのモックアップ制作から始まり、意匠的 にどのような納まり、表現としたら良いか等、実際のサイズ でしか分からない部分を確かめながらの制作となりました。 実際にモックアップを制作することは、ボックスの大きさや 材質、色など模型やパースでは鮮明となりにくい部分を学べ る大きな機会です。学生という立場ながら施工に携われた経 験は価値ある時間となったと思います。設計から施工まで、栗 田祥弘建築都市研究所の方々には常にサポートして頂きまし た。学生としてモックアップや模型を作るのでは、実務とし て建築をつくるということに今まで関わる機会が少なかった こともあり、実務を経験した立場からのアドバイスがなけれ ば今回のプロジェクトは完成の日を迎えることができなかっ たのではないかと思います。



現地での組み立て完成後の風景





現地組み立て作業風景

5. 最後に、これから

現地制作協力

先にも述べましたが、「匣屋」プロジェクトは様々な方に助け て頂き、手伝ってもらうことで完成しました。L字型ボック スの制作を引き受けて頂いた墨田工業高校の皆さん、資材提 供および資金提供を行なって頂いた如学会、総合資格学院、 AD ワールドの方々、検討時や施工時に手伝って頂いた後輩た ち、最後までサポートして 頂いた栗田さんをはじめとする栗 田祥弘建築都市研究所の皆さん。様々な人に助けて頂きまし た。末筆ながらこの場をお借りして御礼申し上げます。また、 竣工して終わりではなく「匣屋」が宿泊場所として今後使わ れていく中でより良い空間へと変わっていくことを期待して います。古滝屋でのプロジェクトは今回で終わりではありま せん。在学中のメンバーによって新しいプロジェクトへとつ ながっています。古滝屋を舞台に新しい空間が生まれていく こと、古滝屋が中心となり地域がさらに盛り上がっていくこ とを願います。

平山大悟 (完成当時・東京都市大学院2年・堀場研究室/現在・石本建築事務所) 数藤朱梨 (完成当時・東京都市大学4年・手塚研究室/現在・同大学院1年・手塚研究室 日里周作(完成当時・東京都市大学4年・手塚研究室/現在・同大学院1年・手塚研究室)

鶴田叡 (完成当時 東京都市大学3年/現在同大学4年・手塚研究室) 池田勇輝 (完成当時 東京都市大学2年/現在同大学3年)

米澤総務委員より開会の辞が述べられ、山岡会長の挨拶に続き、会長の進行により議事 が執り行われた。第1号議案が、小林副会長より発議され、「2016年度事業報告」が承 認された。今まで実施してきたそれぞれの事業を発展させる形であるが、特筆として「如 学会ホームページのリニューアル」及び「建築 100 人展 2016 上野浅草展」の開催があ げられる。「如学会ホームページのリニューアル」は、会員委員会、情報委員会が連携 して行った。会員は浅草文化観光センターならびに隅田公園リバーサイドギャラリー2 会場で執り行い、多くの方に来場頂いた。また、学生の3研究会も合わせて出展したこ とが、新たな試みであった。第2号議案として露木財務委員長より「2016年度収支決 算報告」がなされ、小辻監事より適正な活動であることが会計監査報告され、承認され た。第3号議案「2017年度事業計画」、第4号議案「2017年度収支予算」についても

橋本久義政策研究大学院大学名誉教授による「モノづくりとグローバル戦略」と題した 講演会が、勝又東京都市大学建築学科主任教授の司会により行われた。

講演の内容については、3ページにある日刊建設工業新聞社の山口氏の記事を参照願い

懇親会は、小林副会長、片瀬建築 100 人展副委員長の司会進行により執り行われた。山 岡会長の挨拶より懇親会が開会された。今年は、ご来賓の方々の挨拶を、中村英夫東京 都市大学名誉総長、皆川勝東京都市大学工学研究科長、原口兼正東京都市大学校友会副 会長、勝又英明東京都市大学建築学科主任教授より頂いた。そして斉藤如学会副会長の 発声により一同乾杯を行った。

引き続き参加された方々のご紹介を行い、まず建築学科教室より西村功教授、勝又英明 教授、堀場弘教授、福島加津也教授、焦瑜准教授、鈴木浩様よりお言葉を頂いた。つぎ に特別講義の講師の方々として、新井章邦様、十河彰様、平田駿様、田中祐太様をご紹 介し一言を頂いた。さらに、本年は蔵田周忠先生が亡くなられ50年ほどたち、それを 記念して歴代の受賞者の方々をご紹介し、近況や蔵田賞受賞がその後の設計活動に与え た影響などをお話頂いた。第1回受賞者である勝又様より受賞年順に、本多豊様、中島 究様、奥村俊道様、千野保幸様、片瀬雪乃様、平田駿様、浅井英明様、石川真吾様、岡 本啓吾様をご紹介した。

2016年度の各賞の受賞学生として、卒業作品「川崎幸市場」により蔵田賞を受賞した 岡本啓吾様、卒業論文「木材のめり込み挙動の関する実験的研究-三角形めり込み そ の2-」により如学会賞を受賞した増田渓竜様、毎年、代官山ヒルサイドテラスにて行 われている東京建築コレクション全国修士設計展にて準グランプリにあたる中村拓志賞 を受賞した大井雄太様をご紹介した。

「福島復興支援プロジェクト」として、いわき市の古滝屋旅館で地域を支えるボランティ アルームを設計・施工するプロジェクトを行った東京都市大学の学生有志メンバー、平 山大悟君、目黒周作君、数藤朱梨君、長谷川貴大君をご紹介した。さらに、如学会より 学生 3 研究会の代表者の学生に奨励金を山岡会長より授与した。

また、毎年会場にて建築分野の先進 | T技術をご説明頂いている片桐岳様に、災害時(洪 水時)の避難シュミレーションの技術をご紹介いただいた。

会費・支援費納入のお願い

如学会で催される様々な事業は会員の皆様の会費で賄われていま す。今年度も多数の会員の皆様から会費、支援費の納入を賜りました。 誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成20年度から導入された会費4年分10,000円という割引制度が、 郵便局への為替振込の簡便さもあって、4年分一括納入の会員の方が 増えています。ただし年度毎に振り込む習慣がなくなるので、会費切 れの会員データシートの会費欄、会費納入者リストをご確認頂き、会 費切れの方は会費納入の程、よろしくお願いします。また4年前に導 入された支援費制度も定着してきまして、毎年多数の OB の皆様から ご支援頂いております。支援費につきましては、年度毎に会員の皆様 の篤志を仰ぐ制度となっております。既に4年分の会費をお納めの皆 様も、支援費ので協力についてよろしくお願いいたします。会費・支 援費のご納入いただいた方々は、如学会 NEWS に添付の納入者リス トにご芳名を掲載させていただいております。

会 費:3,000円(1年分)/10,000円(4年分・割引) 支援費: 5,000 円 /1 口

納入頂ける方は必ず内訳をご記入の上、振込頂くようお願いいたしま す。如学会 NEWS に同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座 をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No.00160-0-174206 如学会

2018年度定期総会・講演会・懇親会のご案内

来年、2018年度の定期総会を開催します。本年同様、「同窓会」 として位置づけており、お誘い合わせの上、多数の OB、OG の参集を期待しております。

в **2018.06.02** [±] 場 渋谷エクセルホテル東急

詳細は「如学会 NEWS」2018 年春号に掲載します。



東京都市大学 如学会

2017年度 定期総会·講演会·懇親会



山岡嘉彌会長挨拶





学外主催の卒業設計賞入賞者紹介



2017年度 定期総会·講演会·懇親会

三研究会会長他紹介、記念写真撮影(前列右:手塚貴晴教授)

如学会 2016 年度収支決算及び 2017 年度予算案

【一般会計】

年度		平成28年度決算 平成28年4月1日~平成29年3月31日			平成29年度予算 平成29年4月1日~平成30年3月31日		
	会員会費	1,760,000	1,606,000	-154,000	1,610,000	170人×3,000(1年分)+110人×10,000(4年分)	
	支援費	500,000	412,000	-88,000	500,000	50人×10,000	
	総会	560,000	727,000	167,000	520,000	70名×7000、祝金:30,000	
	常任理事会	100,000	0	-100,000	0		
	職域理事会	350,000	220,000	-130,000	250,000	懇親会:50人×5,000	
	100人展	1,465,000	1,901,000	436,000	1,830,000	出展料90点×7,000、協賛費120万	
	スキルアップ特別講義	20,000	0	-20,000			
	見学会	60,000	14,000	-46,000	40,000		
	校友会支援費	1,100,000	1,010,000	-90,000	1,010,000		
	その他	0	74,255	74,255	10,000		
収入合計		5,915,000	5,964,255	49,255	5,770,000		

支出の部	科目	予算	実績	対予算	予算	
NEWS	制作費 春・秋	800,000	643,560	156,440	650,000	3,000部 送料 封筒代含む
	発送費 春・秋	400,000	390,851	9,149	400,000	3,000部 送料 封筒代含む
	取材費	38,000		38,000		
	NEWS計	1,238,000	1,034,411	203,589	1,050,000	
会員管理費	印刷関係	170,000	339,379	-169,379	350,000	
	会員管理費計	170,000	339,379	-169,379	350,000	
会議費	総会	810,000	793,110	16,890	800,000	会場費:71万(学生参加費含む)、印刷費:3万、パネル運搬費:6万
	常任理事会	150,000	61,058	88,942	30,000	主にコピー代
	職域理事会	350,000	229,779	120,221	250,000	懇親会:50人×5,000
	委員会	80,000	90,682	-10,682	90,000	会議室代
	会議費計	1,390,000	1,174,629	215,371	1,170,000	
主催事業	100人展(大学展+巡回展)	1,465,000	1,562,999	-97,999	1,260,000	展示用品費、運送費、懇親会費他
	ホームページ作成	250,000	252,072	-2,072	250,000	ホームページ作成費(2年に分けて支払い:2年目)
	特別講座	150,000	171,610	-21,610	180,000	交通費15名×5,000、懇親会:75,000、他雑費
	進路ガイダンス	300,000	273,306	26,694	280,000	昨年実績:企業75社、学生参加111名、文具代、懇親会
	見学会	60,000	3,360	56,640	40,000	昨年実績:企業75社、学生参加111名、文具代、懇親会
	産学連携				50,000	コピー代他
	若手・中堅OG/OBの発 掘事業					2回開催。会議費、インタピューお礼
	ワークショップ(青年委員会)	378,000	218,610	159,390	384.400	20,000円/回×3回、報告書冊子印刷他324,400円
	スキルアップ特別講義	43,000	17,608	25,392	42,800	会議室3,200円×4回、講師交通費4名×5,000
	定期総会における懇親					学生15人×2,360
	会への学生参加プログ				35,400	
	ラム 如学会ニュースの製図					学生他)
	室への掲示				38,400	印刷代 6回×6,400
	主催事業計	2,646,000	2,499,565	146,435	2,598,800	
学生関係	助成金	90,000	180,000	-90,000	180,000	大学祭時に3研究会へ、赤レンガ卒業設計展へ
	蔵田賞他	110,000	110,000	0	110,000	蔵田賞、如学会賞
	学生関係計	200,000	290,000	-90,000	290,000	
管理費	慶弔費	100,000	326,935	-226,935	50,000	
	交通費	20,000	730	19,270	1,000	
	通信費	2,000	13,888	-11,888	20,000	
	事務用品	50,000	20,759	29,241	30,000	
	支払手数料	30,000	28,442	1,558	30,000	
	荷造運賃	5,000	8,502	-3,502	10,000	
	支部出張費	0	20,000	-20,000	20,000	
	予備費	50,000	84,463	-34,463	100,000	
	管理費計	257,000	503,719	-246,719	261,000	
	支出合計	5,901,000	5,841,703	59,297	5,719,800	

7 do ± 1

<u>[NX]</u>				
科目	予算	実績	対予算	予算
収入合計	5,915,000	5,964,255	49,255	5,770,000
支出合計	5,901,000	5,841,703	59,297	5,719,800
収入合計-支出合計	14,000	122,552	-108,552	50,200

前年度繰越額	7,759,165
一般会計収支	122,552
次年度繰越額	7,881,717

如学会の今年度後半の主な行事は 下記の通りです。多くの会員の皆 様のご参加をお待ちしております。

東京都市大学「建築100人展2017」/図書館展+大学展+浅草展

2017.10.07 (±) -11.05(B)

9:00-16:30 (10/7-11/3) 図書館展 9:00-18:00 (11/4-11/5)

会場:世田谷キャンパス 図書館 入場無料

■建築 100 人展 2015「10 周年記念誌」を拡大展示以外に、 在校生 3 研究会による「上野・浅草」研究 2016 の発表

2017.11.04 (±) -11.05(⊟)

10:00-18:00 入場無料

会場:建築学科1階グランドギャラリー

■OB、OGによる「100人展」及び、在校生の3研究会に よる「浅草」研究の発表、及び2年生課題発表などがあります。

2017.12.02 (±)-12.10 (B)

浅草展

9:00-20:00 入場無料

会場:隅田公園リバーサイドギャラリー



■隅田公園リバーサイドギャラリーは 全長 100 メートルの長大な展示空間。 展示のバリエーションと量は圧巻です。

本文 P14-15 参照

進路ガイダンス 2017

2017.11.22 [水] 13:00-19:00

場所・東京都市大学 世田谷キャンパス

●第1部 事業別仕事紹介 13:00-15:45 会場:5号館1階「小講堂」 OB・OG の講師の方々から専門領域の概略をお話しいただきます。

- ●第2部 企業別仕事紹介 16:00-17:30 会場:建築学科棟1階「グランドギャラリー」 OB·OG の方々と直接お話をしていただきます。
- ●第3部 懇親会 17:30-19:00 会場:1号館4階「ラウンジ・オーク」 立食形式の懇親会で、参加無料です。自由にご参加下さい。

定期総会・講演会・懇親会

 $2018.06.02 \ {\tiny [\pm]} \ 15:30\text{-}20:00$

15:30 定期総会 ●渋谷エクセルホテル東急 16:30 休憩 16:45 講演会 (講演者:未定) 17:45 休憩

18:00 懇親会 20:00

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。 HPもご覧下さい。

東京都市大学



卒業生100人の活動を集めました。

2017

|図書館展 2017.10.07 → 11.05 ● 東京都市大学世田谷キャンパス 図書館 金倉:東京都市大学 世田谷キャンパス 図書館

「図書経覧」は建築100人版10周年記念の記念誌の100人会の作品 画像を展示しています。 「大学版」「複雑集」は2017年の100人会の新規作品の銀示です。

東京都市大学 東京都市大学 日田谷キャンパス 建築学科権 東京都市田谷区五津1-28-1

編集後記

特別講義はこの秋に開催される建 築100人展と同様に12回目を迎え 来100八族と門様に12回目を迎えました。講師15名中平成卒世代が12名と多く、受講する学生にとってより身近な存在であり講義に集中

でより身近な存在であり講義に集中 する姿が見られました。 第1日目が若い講師で、分かりや すい講義でとても良い滑り出しでし た。平成と言っても1桁の講師は 20年を超える実務経験でもっとも 脂の乗った講義であり、昭和世代も 値かな経験に裏付けられた講義でした。一方の建築100人展は例年の大 学展・巡回展に加えて10月7日か 511日51日まで図書館展を開催し ら11月5日まで図書館展を開催し ます。大谷図書館長の要請で実現しました。最終2日は大学展と重なります。 岩崎先生の設計の空間も堪能 できます。是非、世田谷キャンパス 図書館にも足を運んで頂きたいと思

図音品でした。 います。 6ページの木村先生に続き2ページ に勝又先生が触れてますように三宅 先生が逝去されました。我々世代に は武蔵工業大学時代を形成された先 生方でした。 ご冥福を祈り申し上げます。 丹羽譲治

各事業の申し込み 問い合わせ先 総務局長 丹羽譲治 TEL:03-5790-8082 FAX:03-5790-0654 F-mail jogakkai.info@jogakkai.jp

山岡 嘉彌

情報委員長・編集長

丹羽 譲治

編集顧問

松成 和夫

編集委員

洒井 孝博

勝又 英明

山口 裕照

鈴木 浩

エディトリアルデザイン

山岡 嘉彌

鈴木 浩

奥山 美緒

jogakkai.jp

Facebook

ページでも

100

株式会社 はやと企画

発行

東京都市大学建築学科如学会 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 〒 158-8557

2017年10月1日





|大学展 2017.11.04 ▶ 11.05 ● | 浅草展 2017.12.02 ● ▶ 12.10 ●

支援費:5,000円/一口

__ 如学会

い場合は下記口座をご利用ください。

会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進 にご協力いただけるようにお願いします。そして、積極的に如

学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも多くのメリット

があります。会費・支援費のご納入いただいた方々は、如学会

NEWS に添付の納入者リストにご芳名を掲載させていただいてお

会費: 3,000 円 (1 年分) / 10,000 円 (4 年分·割引料金)

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお

願い致します。如学会 NEWS に同封の専用の振込用紙を用いな

郵便局 払込取扱票 No. 00160-0-174206 如学会

如学会ホームページのご案内

郵便振込以外の方法を紹介(詳しくは如学会HP)

松学会主任(地路カイダ ンス)が11月22日(水) に開始されます。

100

院田公園リバー 東京都合東区都(IP)・1 サイドギャラリー